明治四十二年二月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十一號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾壹號目次

講演

○盲腸炎に就て　醫學士 橋本左武郞

叢談

○飲食の本義　醫學士 X 生
○吃りの豫防　ドクトル クノップ述 エム、ケー抄譯
○活ける家(承前)　醫學士 渡邊房吉
○頭髮のたしなみ(續き)　K. H. 生

育兒

○育兒瑣談(其四)　H. S. 生

家庭衛生

○衛生雜話　H. S. 生

雜報

○猫畜飼養に關する告諭○市の衛生事業○理想的針按術○獨得の長壽法

大日本婦人衛生會記事

○本會二月例會○新潟支會○山形支會○本會入會者○山形、宇都宮、茨城、新潟の各支會入會者○轉居

○附錄　私立大日本婦人衛生會會員名簿

大日本婦人衛生會

三月例會通知

來る三月六日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一「ペスト」病毒の傳播こ蚤この關係　醫學士　石原喜久太郎君

一歐米の所感　醫學士　栗本庸勝君

明治四十二年二月　私立大日本婦人衛生會

歌書刊行會會員募集

此度諸名家の贊助を得て本會を創設し、我國二千年來の歌の卷を次々に刊行し、最も便宜なる方法を以て趣味ある家庭の需用に應ぜんとす。刊行すべき書籍は其體裁を一にし、最も嚴密なる校訂を施して在來の流布本の誤謬を正し、特に鑄造せしめたる優美の活字を用ひて**最良の日本紙に印刷**し、裝釘も亦極めて高雅のものとなし、以て貴紳の書架を飾るに足らしめんとす。先づ第一期として刊行するは歌仙家集六卷並に二十一代集五十六卷にして毎月二冊宛(紙數によりては三冊)刊行し略二箇年半を以て其完結を期すべし。今や**歌仙家集第一卷**(人丸集、躬恒集、素性集、猿丸太夫集、家持集、業平集、兼輔集)**第二卷**(敦忠集、公忠集、齋宮集、敏行集、宗于集、清忠集、順集、是則集、小大君集、能宣集、兼盛集)**の印刷成り**たるを以て、汎く江湖の紳士淑女に稟告して入會を仰ぐ。

本會々費は毎月金壹圓とす(地方は送本料八錢を要す)○刊行本の紙數平均一冊七十枚乃至八十枚とす
〇本會趣意書、規定、刊行本**見本**をまとめて印刷したる小冊子あり往復はがきを以て申込まるれば直に送呈すべし
●**入會申込期限は三月三十日とす**

本會顧問

(イロハ順)

文學博士 萩野由之君　子爵 渡邊千秋君　鎌田正夫君
賀古鶴所君　醫學博士 井上通泰君　大口鯛二君
伯爵 柳原義光君　柳田國男君　子爵 相良頼紹君
佐々木信綱君　下田歌子女史　醫學博士 森林太郎君

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
電話下谷二七四五甲●振替口座東京三〇五八番

歌書刊行會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を拂はざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の稱類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け [illegible] 編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員 [illegible] 長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選す [illegible] 中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五 [illegible] 評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十 [illegible] 會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回 [illegible] を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くこ [illegible] 回會員相互親睦の爲め開遊會を開くことあるべし● [illegible] 經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會 [illegible] むるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは [illegible] 誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣 [illegible] き事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を許す [illegible] 改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月 [illegible] 支決算竝に庶務の概要 [illegible] 有金は本會の名義を以て三井銀行に [illegible] 收支は總て會計擔任の幹事 [illegible] を要するものとす● [illegible] ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし [illegible] 支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起 [illegible] を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得 [illegible] 員にして支會を設立せんとするときは發起 [illegible] 後員數増減あるときは其姓名を支會より [illegible] 會員にして支會に加入したる者の會費は [illegible] の規定に依るものとす●第廿七條　支會 [illegible] を得●第廿八條　本會雜誌は支會に回 [illegible] り本會に送付すべし [illegible] 亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を [illegible] 第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し [illegible] 條　會員又は會員外の者にして [illegible] 者ある時は本會々長の名を以て別狀 [illegible] 登許し尚本會雜誌を以て報告すべし [illegible] 設とし別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増） [illegible] 東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金と [illegible] にて本會事務所々在の郵便局麹町區富士見町郵便取扱所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障礙となるべき所爲ある者又は會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは [illegible] 告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子
（いろは順）
幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木かう子
同 山本多穗子
同 松平芳子
同 三浦敎子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 穗積歌子
同 土肥多越子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
評議員 子爵夫人 山口貞子
同 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下吹子

●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士 伊東祐彥君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
理學博士 石川千代松君
赤十字社內科 岩井禎造君
醫學士 石原久君
醫學士 磐瀬雄一君
醫學士 石原喜久太郎君
男爵 濱尾新君
醫學博士 濱田玄達君
法學博士 鳩山和夫君
東京 荻原瀰四郎君
醫學博士 芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟 長谷川一詮君
小兒科 小原頼之君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 林春雄君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 緒方正規君
步兵中佐 堀內文次郎君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 岡田和一郎君

醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大西秀治君
醫學博士 大澤岳太郎君
一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 若杉喜三郎君
醫學士 渡邊房吉君
男爵 加藤弘之君
醫學博士 加藤照麿君
醫學士 賀古鶴所君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 川上雅量君
醫學博士 樫田龜一郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 笠原光興君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 河野衞君
醫學博士 高橋順太郎君
ドクトル 高山紀齋君
醫學博士 高木兼寛君
法學博士 高木豐三君
醫學博士 田代義德君
新潟 田代完助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
醫學士 高田耕安君
新潟病院長 高橋辰五郎君
藥學博士 丹波敬三君
醫學士 高橋貞碩君
藥學博士 田原良純君
醫學士 田村光顯君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學士 米山彥郎君
二等軍醫正 星野葆光君
醫學博士 宮本叔君
三等軍醫正 横井忠國君
帝國教育會長 辻新次君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 長與稱吉君
男爵 南部甕男君

藥學博士 理學博士 長井長義君
醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學士 黑田玄造君
醫學士 栗本庸勝君
海軍中佐 小笠原長生君
醫學士 村松新三君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 栗本東明君
醫學博士 山田鐵藏君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
岡山 山川春二君
衛生試驗所技手 丸山長四郎君
ドクトル 松山陽太郎君
ドクトル 小此木信六郎君
盲啞學校長 小西信八君
廣島 小泉寶君
醫學士 古川榮君
東京 布施正顯君
男爵 後藤新平君
名譽教授 エ、ベルツ君
醫學士 甲野榮君
寺田勇吉君
醫學士 寺田豐作君
醫學士 寺田織尾君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 足立寛君
ドクトル 富士川游君
高崎醫會長 土谷全次君
產科婦人科 水原漸君
ドクトル 久保田誠隆君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學士 淺田決君
醫學博士 朝倉文三君
ドクトル 朝山義六君
醫學博士 吾妻勝剛君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐伯理一郎君

醫學博士 榊順次郎君
醫學博士 榊保三郎君
醫學士 佐藤得齋君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學士 北村精造君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北川乙治郎君
醫學博士 木下正中君
醫學士 北島小太郎君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學博士 三浦守治君
醫學博士 三浦謹之助君
小兒科專門 宮本仲君
理學博士 箕作佳吉君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
醫學博士 島村俊一君
醫學博士 弘田長君
ドクトル 円高昂君
ドクトル 須田卓爾君
醫學士 澄川德君
醫學博士 木村德衞君
醫學博士 森林太郎君
醫學士 籠川三男三君
醫學士 波多野悸君
醫學博士 吳秀三君
ミス リツデル
ミス ヒユース
ミセス コーツ
ドクトル 菊池循一君
醫學士 橋本左武郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土田卯三郎君
ドクトル 佐藤運雄君
ドクトル 西山信光君
醫學士 澤崎寛制君

婦人衛生雜誌第二百三十一號
（明治四十二年二月二十日發行）

講演

盲腸炎に就て

醫學士　橋本左武郎

度々皆さんのお聞を煩しましたが、今日又暫くの御清聽を願ひます。元來衛生上の講話と云ふやうなことに就きましては、廣く社會の出來事に接觸して居る人にあつては、極めて好題目を捕へて御話することが出來まするが、私等の如き學究的に一の事にコツ〳〵して居る者は、至つて巧い題目を摑へることは拙手でありまして、從つて今日申上げることも定めて皆さんには何等の興味のないことであらうと考へまするが、チヨツと暫くの間御清聽を願ひます。

デ題は『盲腸炎に就て』と云ふことにしてありますが、此盲腸炎と云ふものは、醫學上の見地から見ると頗る廣い問題でありまして、內科醫、外科醫、婦人科醫、種々なる方面から、却々六ケ敷い問題が起つて來るけれども、衛生上の講話として斯樣なことは申上げる積りではありませぬ。唯私が平生治療上の盲腸炎に就て、一般の人から御注意を願つて置きたいと思ふ一二の點を唯御話するに止まるので、餘り深く專門のことに立入りますと、啻に皆さんに御分り惡いのみならず、又時としては誤解を招くことがあります。又序ながら申上げたいことは、此衛生上の講話を聽くか、若くは衛生上のことを雜誌などで御讀みになることがありましたならば、唯其事に就て御注意下さるならば宜いけれども、餘り其事に深く御考へにならないことに願ひたい。と申しましても御分り惡いかも知れませぬが、往々にして衛生上の講話からして病氣を拵える方が澤山ある。例へ

ば一例を舉げて申したならば一番分り易いだらうと思ひますが、或衞生上の本に肺病になると胸が痛いと云ふことが書いてある。之を御覽になると、どうも自分は胸が痛いから肺病ではないかと心配なさる。斯う云ふことに就て深く御心配なさると非常に神經が疲勞致しまして、神經衰弱に罹ることは往々にある。それは言ふまでもなくして胸の痛いことそれ自身が肺病では決してない。又御婦人の方にあつても屢ゝ婦人病に就ての雜誌などをお讀みになりまして、自分が既に其病氣になつて居るのではないかと云ふやうな御考を起して、隨分神經を刺戟することがあります。是等は總て衞生上の講話に就て唯御注意になつて居るだけで、病氣自個に就ての判斷は總て專門の醫師に委して安心して置く方が宜しいのであります。夫故衞生上の講話は、皆樣が病氣におなりなさらぬ樣、又は病氣の初めに早く御注意なされたり、既に病氣になりたる時に御注意なさる樣の事を申上ぐるもので、病氣其もの丶事には深く立入らぬ方が宜しからうと思ひます。

先づ此盲腸炎なるものは如何に多い病氣であるかと云ふことを第一に御話したい。

デ此人體にあつて盲腸と云ふ所は、一體出來損ひの所である、頗る不手際に出來て居る。餘りに不手際に出來て居るからして何か必要であつて出來たのであらうと云ふことになつて居りますが、如何に人でもどう云ふ必要であるかと云ふことが分らない、マア言ふて見れば出來損ひと言はなければならぬ。それはどう云ふ狀態にあるかと云へば、此右の方の腸骨窩と云ひます所から、結腸、大腸があります。して、之れに小腸がクッ付いて居る。胎生學上大小腸出來る時には別であつたが、それがうまい工合に小腸が大腸の方へ附いて呉れゝば宜いけれども大腸の中途半端の所へ小腸が口を開けて、それで斯う云ふ工合に横へ持つて來て小腸が口を開けて仕舞ふ。(圖を指示す)さうすると、其結果として總ての食物が胃から小腸を通つて、さうして口を開いて居る所

へ食物を持つて行く。それから大腸を通つて排泄される、斯う云ふことになる、さうすると、此小腸の口を開いた所から上の部分、位置から言へば下であるけれども、順から言うと上になる。此處が全く不用の所になつて仕舞ふ、食物の這入らない所が出來て仕舞ふ(圖に就て説明す)詰り働きを爲さない所が出來て來る。大腸の一部分に此働きを爲さない結果として、其部分は萎縮するのです。總て人體は使はずに置くと其使はぬ部分が萎縮する、即ち何か足に痛みでもあつて、足を少しも使はないと、第一に足が瘠せて來る、肩に何か腫物の痛みでもあつて、手を使はない、其使はない方の手が細くなる。神經もさうである、餘り神經を使はずにノラクラして居ると頭腦が萎縮して、所謂神經が小さくなる。餘り使ひ過ぎると無論いけませぬが、使はないと使はぬ所は萎縮して仕舞ふ。之と同樣に大腸の此先きが自然と萎縮して仕舞ふ、細くなつて恰も一つの紐が下つたやうになる。此部分を名けて之を蟲樣垂、蟲の樣な工合に下つて居る。此處は至つて不都合な所である、是が又うまい工合にスツカリ口が塞つて仕舞つて居れば宜しいけれども、元來此の管が段々と小さくなつて凋んで仕舞つたものであるから、兎角中に細く穴が殘る、此細い所に何か入つて來る。例へば葡萄の種のやうなものが入つて來る。さうすると一旦此狹い所へ入つて行くと出ることが出來ない、吾々の消化器内にあつては隨分大きな物を飲込んでも大腸なるものは大抵それが再び外部に排泄して仕舞ふけれども、さう云ふ所へ入り込んで行つた物は甚だ出惡い、さうすると其處に刺戟を與へて炎衝を起して來ます。

それから其蟲樣垂の萎縮の仕方が、全く此小腸の口を開けた所まで縮つて仕舞へば大變工合が宜いがさうはいかない、小腸と大腸とが恰も丁字狀をなして、其一方は上行結腸、横行結腸より肛門に至り、他方は囊狀に終て蟲樣垂と連結す(圖を示す)此の囊狀の部分を盲腸と云つて、之も大變に炎衝を起し易い。

即ち此盲腸の部分は蟲様垂よりも大きいだけにそれだけに尚ほ物が行き易い。さうして此處へ落込んで來ると、他の部分の如く流暢にズッと通つて出ると云ふことは困難である。であるからして、此部分も大變に炎衝を起し易いのであります。

斯う云ふ風に盲腸の部分に炎衝を起すものを之を盲腸炎と云ふ。然し醫學上で詳しく言へば、一般に普通盲腸炎と稱へる中にも色々の區別はあります、即ち蟲様垂の部分に炎症があれば蟲様垂炎です。或は内部よりも多く盲腸の外へ炎衝を起すときは、之を盲腸周圍炎と云ふのです。又盲腸の後ろの結締織に炎衝を起すのは盲腸背炎と云ふ。總て此部分の炎衝は大體に於て同様の症候を呈するから一般に盲腸炎として御話しても差支ない。それで斯の如く盲腸部は病氣に侵され易いから、從て腸の一般の病氣の時でも能く盲腸の所が一番冒されるのです。例へば腸窒扶斯の如きも、盲腸部の所に最も大なる病竈を起す。或は腸の結核でありても他の部分にも無論出來まするが、一番冒される所は盲腸部であります、デあるから此盲腸炎と云ふ病氣は非常に思つたよりは多いものであるといふ事はお分りになりましたでしやう。

それでどう云ふ徴候を呈するものであるか、即ち盲腸炎と云ふものはどんな風になつて起つて來るものであるかと云ふことを御話すると、是はいろ／＼の風になつて起つて來ますから一様には言はれませぬけれども、最も普通の例を擧げまするど、第一に寒氣がして熱が起つて來る、其熱も三十九度から四十度位の熱になる。同時に右腸骨窩と稱へる右の下腹の所に劇烈なる痛みを覺ゆる。さうして其痛みが上の方の胸の方まで及んだり、或は足の方まで引きつる様の痛みがあるからして、さう云ふ場合には患者は通例足を曲げて寢て居る、足を延すと痛みが劇しくなります、或は斯う云ふ風な工合に起て來ないで通常の腸加答兒—極く輕微の腸加答兒の様に下痢を起したり一般に腸に痛みがあり。丁度尋常普通の腸

加答兒の徴候であつて、さうして後に盲腸の方に炎衝を及ぼして來て、他の部分は癒つても盲腸の部分だけ殘ると云ふやうなことがある。斯う云ふ場合には殆んど熱も何もないが、唯右の横腹の所が時々痙攣やうな氣持がするさ云ふやうな、極く僅かなる徴候であつて、殆ど自分が氣にも止めないやうな事がある。デあるから非常に激烈なる徴候を持つて急激に始つて來るのもあるし、極く弱い徴候を持つて徐かに始つて來るのもある。デそれから盲腸炎の確かの徴候は醫者の方でなくては能く分らない、兎に角一番盲腸炎の主なるものとしては、右の方の腹部の痛み、それから熱、熱は必ずある譯ではない、痛みも激烈でない事もあるが、先づ右腸骨窩の痛い時は必ず深く注意をしなければならぬ。

それから次に盲腸炎がどう云ふ危険のものであるかと云ふことを申しますれば、第一に化膿である、此部分に初め炎衝を起して一勿論初から膿がある譯ではないが、さうしてそれから漸次膿を持つて來る、化膿せずして炎症が去りて治癒する事も多いけれども、既に膿を持つて來るとどうしても外科醫の切開を要さなければなりませぬ。何となれば何時此部分が破裂して、膿が腹膜に飛出さぬとも限らぬ。膿が盲腸の所にあつて限局して居る間は差支ない、けれども一旦此膿が破れて腹膜に及ぼすさ、汎發性腹膜炎、即ち全體の腹膜炎を起して來る、さうするさ到底助からない、モウ駄目です。デあるから既に膿があるさ云ふことを認めたならば、出來る丈け早く外科醫の手に賴つて切開をしなければなりませぬ。けれども又時としては此膿が腹膜の方へ破れないで腸の方へ破れることがある。さうするとドン〳〵腸の方からして膿が出てさうして、切開しなくつて癒つて仕舞ふことがある。是等は人體に於ける自然の治癒機さ云ふものでナカ〳〵貴重のものである。私が斯う云ふ例を見たことがある。或病人が暫く腹がわるくて臥て居りしものが、一時に非常に多量の膿さそれから血のやうなものが下つて非常に痛みがあつ

て弱つて仕舞つたといふ事で、それで段々と診察すると盲腸炎であつて、盲腸の所に膿があつて、其膿が破れて出て來たのである。それであるから是はいくまい、恐らくは腹膜炎を起して死ぬだらうと思ひました。私は一回しか見ないのでありますが、此病人は十日ばかり經つてから癒ほつて仕舞つた。實に

私は人間の身體の自然の治癒機なるものゝ巧妙なるには驚きました。然し斯う云ふことは必ずしも望み得べきものでないから、膿が溜つたと云ふことを認めたならば、速かに外科醫の手に就て切開して貰はなければならぬ。

第二の危險は再發である、此盲腸炎はどうも兎角に再發し易い病氣である。デ非常の熱でもあつて痛みでも多い場合は、病人も醫師の言ふことを聞いてチヤンと醫師の言ふ通りになつて居りますけれども、それが少し癒つて來て、熱も無く痛みも薄らいで來ると、チッと寢て居ると云ふことは困難であるからして、また醫者の眼から見て十分全治したものと見られない中に既に身體の運動を始める。さうすると直ぐに又それが再發して來る。再發に再發を重ねると遂に化膿に陷るといふ工合に段々危險が增して來る、又醫者の眼から見て全治と見ない場合に於て身體の運動をし、普通の生活に返つても、それでも尙ほ幸に何ともなしに三箇月も半年も一年も經過する者がある。さうするとそれで以てモウ良いものと思つて居ると突然と腹膜炎を起して來る事がある。非常に危險である。然し斯う云ふ場合は元來初めに既に盲腸の部分に膿瘍が出來て居るのです。けれども膿瘍が出來て居つても今申す如く堅い結締織の袋に包まれて居る間は、痛みもなければ熱も起して來ないで潜伏して居ることが出來る。それが或激しい體動でもやると、直ちに破れて化膿性の腹膜炎が起る。斯う云ふ危險の例は、主に初めに極く輕い盲腸炎をやつた人に多いやうです。初め激烈の痛みがあり、高き熱があつて、強い盲腸炎を起して居る場合には誰でも用心して十分の治療を加へるから却て完

全に治癒して仕舞ふ、從て餘りさう云ふことは起つて來ない。けれども極く輕い、別段熱もなければ餘り痛みもないやうな輕い盲腸炎であると、醫師の方でも兎角油斷し易いし、病人の方でも尚更ら油斷する。ツイ十分な治療を加へずして打捨てゝ置く。さうするとそれが自然々々の間に膿瘍を作つて二年とか三年とか—私の見た中で一番其間の長くあつたのが三年目に起つて來たのがある。三年目に突然と何の原因もなく、少し電車に乘つて電車から降りて十町ばかり歩いたといふそれだけの機會に依て、非常に激烈なる腹部の疼痛を來し、腹が張つて來て非常に熱が出て來たといふのである。それを私が見ると立派な腹膜炎を起してあります。それで段々遡つて聞いて見ると、三年前に極く輕い盲腸炎を起したことがあると云ふことである。それから私は化膿性腹膜炎と考へたから、直ちに或る外科の博士に願つて腹部を切開して貰つた所が、果して盲腸の所に膿瘍があつて、そこが破れて化膿性腹膜炎を起し、其小骨盤腔内には一杯に膿が溜つて居りました。それで此患者は遂に空しくなりました。

斯う云ふ状態でありまするから盲腸炎と診斷が附いたならば非常に嚴重の攝生が必要である。其第一は身體の安靜である、第二は食物である、即ち流動物若くは流動物に近い非常に軟かい食物を取つて、そして全く盲腸炎の徴候の無くなる程度まで之を治療しなければなりませぬ。是は特に私が申上げたいと思ふ點であります。一口に云へば何でもないやうの事で、病氣に罹つたならば、それがスツカリ癒つて仕舞ふまで治療するのは當然ではないかと云ふ事になりますけれども、ナカ〳〵實際さうはいかない。まだ餘り長くなると病人の方でも飽きて來るから、醫師の眼から見て盲腸に多少炎衝が殘つて居る場合に、少し位は宜しからうと病人が起きて歩いて見る、別段障りがない、又流動物ばかりではどうも力が付かない、此位はよからうと固形物を食する、然し自分には痛みを感じない。遂に其儘にしておくと前に

申す如く數月若しくは數年の後に再發して危險を來たす樣になります。斯ういふ場合に醫者の攝生を嚴重にするのは中々困難である、それのみならず往々患者の感情を害する事がある。それもさう云ふ風の狀態になつてから、二日や三日、四日や五日の間なれば宜いけれども醫學上の完全の治癒を得るには中中容易の日數でない。それであるから餘程注意深き病人でないと治療甚だ困難である。故に此腸の惡いときには醫師も注意して盲腸の所に炎衝を殘さないやうにするのは無論であるが、一旦盲腸に炎衝を起したならば、病人は飽まで醫者の言に從つて嚴重なる治療をして貰はなければなりませぬ。

デ多くの人の中には、治療といへば唯藥さへ飲んで居れば宜からうと考へて居る人がある。けれども之れは間違ひであつて藥と攝生と併行せなければならぬ。一體此日本程藥に偏して信用の多い國はないやうであります。昔から醫藥と稱して醫者と藥を殆んど同一物に看做した弊であらうと思はれる、從て攝生法と云ふ觀念は割合に日本人には少ないやうであります。此弊害は昔から既に認められて居るので、一に看病二に藥などゝいふ諺の出たのも此の爲めであらうと考へる、藥は無論貴いものであるけれども、藥を飲むと同時に攝生法が極めて必要である勿論各疾病に對する適當の攝生法は醫者の注意に據らなければならぬそれども、其之を守ると守らぬとは病人の衞生上の思想の有無に關係するのであります。それであるからして今日此衞生會であるとか、衞生上の講話と云ふことが起つて來たのである。殊に今の盲腸炎の如きも、痛みや熱が去つて什舞つた時には藥よりも攝生法が必要であるから玆に一言申し述ておきます。

それからモウ一つ、盲腸と相關して特に御婦人の注意を要することがある。今まで申しましたのは、詰り内科と外科との關係になつて居りますが、内科と婦人科との關係が隨分に多いのであります。それは此盲腸、殊に蟲樣垂の先きが小骨盤の中に入つて居

ることがある。さうすると丁度婦人の生殖器の附屬器と相接觸して居る。デあるから始終盲腸炎若くは盲腸炎と子宮の附屬器の炎衝とが一緒になつて來る。或場合には子宮の附屬器の炎衝であるか、盲腸の炎衝であるか分らない場合が多い。今日もどうかして明瞭に分ける方法はないかと、多くの學者が種種研究されて居りますけれども、殆ど子宮の附屬器の炎衝と盲腸炎の炎衝と全く分けて仕舞ふ譯にはいかない位に密接の關係を有つて居る。盲腸炎から子宮の方に炎衝を及ぼしたり、或は若し子宮の附屬器の方に炎衝があると、盲腸に及ぼすと云ふやうな風で、互に因となり果となつて炎衝を起し合つて居る。さうして是が危險なることには、能く妊娠の婦人であると、大變に流產の原因になつて來る。吾々内科醫者の眼に當る所のものでも此の盲腸炎が流產の原因を爲して居るものが澤山にある。そしてそれが激烈の盲腸炎ならば却て注意するけれども、多くは症候が緩慢にして痛いとか熱があるとか云ふやうなことは餘り覺えずして突然と流產することがある。さうしてそれが濟んだ後で醫者の診察を受けて初めて盲腸炎が流產の原因となつたのであるといふ事を知る例があるのです。現在私が一人治療して居る患者の如きも斯う云ふことである。突然と流產を起した、尤も電車に乘つてそれから少し歩いた。さうすると其晩からして熱が出て來て、其翌日になつて流產をした。それを流產後に腹が小さくなつたから、能く〳〵探つて見ると明かに盲腸炎である。盲腸炎からして子宮の附屬器の方へ炎衝を及ぼしたのです。それから能く其前の事を質して見ると、流產の一箇月前位から右の方の腹が時々少し痛む。然しそれも少し休んで居ると直ぐに癒ると云ふやうな大した痛みでないから氣に掛けなかつたと云ふことである。斯う云ふ場合は輕い盲腸炎で、さうしてそれが或體動若くは其他の原因に依て盲腸炎から子宮の方に炎衝を起して來て、さうして流產したものであらうと考へたのである。

デあるから隨分妊娠中の御婦人などは、腹部の痛むと云ふことに就ては餘程御注意爲さらねければならぬと思はれる。聊かたりとも腹部の中、殊に右側部の痛いと云ふことは餘程御注意をしなければなりませぬ。詰らないことでありますけれども、此二點だけは特に御注意を願つて置きたいと思ふのです。卽ち盲腸炎と認めたならば、極めて嚴重なる療法を施して、さうして全くそれを根治して仕舞はなければならぬと云ふことゝ、それから御婦人に取つては、盲腸炎と云ふものは殊に多く起し易い病氣である。妊娠中にあつては殊更に深く注意しなければならぬと云ふ二點である。近來は隨分盲腸を切り取つて仕舞ふ人があるのです。何ごともない人が盲腸は病氣を起し易い處であるからといふて豫防的に之を切つて取つたと云ふ人が西洋ではあるさうですが日本ではまだありませぬ。屢〻再發するやうでは外科醫の手を藉りて切つて仕舞ふ方が宜いが、身體に疵を付けると云ふことは餘り好ましくないことであるし、又これ程にしなくても十分なる攝生を施しさへすれば全治することの出來るものである。以上盲腸炎に關して注意すべき點だけを今日御話して置いた譯であります。

叢談

飲食の本義

醫學士　X　生

○飲食には深い考へが要る、單に飲食の快を貪らうと思はずして一定の判斷を費さねばならぬ。一體我我は、何故に飲食するのであるかと云ふに、舌を喜ばせ若しくは咽喉三寸を快く通過らせるためではない。飲食の目的は實に生活するためである、卽ち我我の身體を強健に保持させんがためである。攝取した飲食物は胃腸に於て消化され、身體組織に同化る

のである。若し此同化作用が無ければ我々の榮養は足らず、遂に餓死せねばならぬのである。

○我々の身體はすべて細胞から出來てゐる、而して此細胞は日夜頽敗破滅して行く、攝取された飲食物は同化作用により細胞組織となつて之れを補つて行く。之れを身體内の新陳代謝と云ひ、新しい材料を以て古い消費しつくされた材料と交代し、かくて再び細胞の用をなさしむるものである。

○故に供給される材料が餘りに少きに失すれば細胞の恢復が全からず、從つて病氣をかもすやうになる。同樣に供給が多きに過ぐれば、滋養餘りに充溢して其働きも不完全となる。故に飲食物の量が其度を保なければ消化作用も同化作用も共に甚しく障碍を蒙り、又組織に同化せぬ材料を飲食すれば病氣の源となるのである。飲食物の品質と分量とに大に加減調節を要すべきは之が爲めである、飲食した物のために苦しむ者の多いのは、多くは此原則を知らぬからである。

○勉強し過ぎた爲めに體が惡くなつたとか、働きが無理であつたから食が進まない樣になつたとか云ふは、多くの青年男女から耳にするつぶやきであるが、其實間食とか夜食とか云ふ食物の不攝生が其原因である事が多い。如何に學務に勤勉で、藝術が堪能で、才力が秀でて居つても、飲食節をあやまるため健康を害ふものが少く無い。常に能く調理された淡白なる食物を程よく食し、之と共に適宜の運動を怠らぬ樣にすれば、身體の健康が破船する氣遣ひはない。

○茶や珈琲や酒類は食物と稱すべき物でない、從つて何の滋養分も含んで居らず、只興奮作用のみを有する神經系統の毒である。さればしみ〴〵と疲れ果てた樣な場合に少しく之を味へば、多少神經を興奮して元氣を引き立てる力はあるが、常に之を用ふれば甚しく害となる、蓋し絶へず興奮さるれば遂には甚しく疲勞するに至るからである。故に茶や酒や珈琲などは、身體組織には何等の用をなさず、身體榮養にも何等の益する所がない、只僅に渇を治する

作用ある計りである。醫者から『飲め』と許された場合の外には、決して斯かる飲料に耽かれるな。吉凶共に酒を用ふると云ふ事と、一日何回と無く茶を飲むと云ふ事は、我國の惡習慣である。斯かる惡習慣は我々衛生を談ずるものゝ、出來るだけ避けたいところである。

○我國の交際には必ず飲食の伴ふと云ふ弊がある、他を訪問しても御馳走が無ければ、何だか己れが冷遇された樣な感じがする。從つて山海の珍味を供して來客の健康を破るのが、通常の事となり、我も人も怪しまぬ樣になつた。菓子で結ばずとも友誼の紐は結ばれる、酒で溫ためずとも友情の冷ゆると云ふ筈は無い。『ついた餅より心持ち』と云ふ諺の通り、赤心熱誠を以て高尚親切な待遇をなさば、何は無くとも虛禮にまさる喜びが溢れる。然り肉慾的の滿足はないが精神的の快樂は萬金を以て購ひ難いものである。

○『京の著倒れ』と云ふが、近頃の樣に虛榮の風が吹きすさんでくると、身邊の裝飾にのみ憂き身をやつし、從つて食物には意を用ひぬと云ふ傾きになる。食は飢を凌げば足るが衣は華美を盡くさねばならぬと云ふ風になり、九尺二間の裏店に貧しい月日を送つて居る家の娘も、身分不相應な裝ひを凝らす。現今の時代思潮は服裝美に傾いて、身體美を閑却して居る。身體美は滋養に富んだ食物によつて得られる。『食は以て飢を防ぐに足る』と云ふ諺もあるが、飢を凌ぐばかりでは足らぬ、身體を強壯ならしむるに要する適當の滋養分をとらねばならぬ。

吃りの豫防

ドクトル　クノツブ述

エム、ケー抄譯

吃りの小兒は、甚だ多くあつて、獨逸國のみにても約十萬の學童は、吃りに罹つて居る、それで此吃りの兒童や兩親が、切に之れを治さうと焦慮する所か

ら、非醫者の手に掛けて、治療を計つて居る有様である、今日でも、言語障礙に罹つて居る者を治療するのは、醫者の仕事では無くて、教育家の成すべき事である、即ち教育的治療に委すべきものであると言ふ醫者も無い事は無い、然るに、ヘルマン、グッツマンの近世學派の言ふ所に依ると、言語障礙に罹つて居る者を治療するのは、此專門教育を受けた醫者に行はしむべき事である、或は、少く共、斯くの如き資格ある醫者の監督の下に於て、吃音矯正法を專攻した教師に委すべきものであると論じて居る、考へて見るに、一體言語障礙といふものは、身體の異常に基くものであつて、彼の官能性の言語障礙も亦同じく身體の變狀に伴ふ事が多いといふ事を會得すると、どうしても、此吃音の矯正は、醫者の治療に委ねなければならぬといふ要求は、正當であると思はれる、更に玆に、例を引いて來て、説明すると上部氣道の變狀、殊に鼻呼吸が妨げられた場合抔は此吃りの原因の上から言ふも、又治療の點から言ふも、大層重要な意味のある事柄なのである、それから又肺臟の働きが何かの原因で、妨碍せられた場合にも、發語作用は、大變に、障礙せられるものである、それから便祕といふ事も、吃音を治す上に於て大層妨げになるものであるといふ事も、日常經驗する所であつて、一向耳新らし事柄でも無い、何故に便祕すると言語の上に障礙を及ぼすかと聞くのに、それは、便祕すると、橫隔膜（胸腔と腹腔とを界して居る所の筋肉から出來て居る丈夫な膜で、此上に肺と心臟があつて、下には、肝臟、胃抔がある）の運動が妨げられるからである、それから吃りに罹つて居るものに、心理療法を施すと、甚だ有效な事がある、此點に於ては、吃りを治療する醫者は、教育者といふよりも、ムシロ實地心理學者であるかのやうに思はれる、此理を少しく説明して見ると次の如くである、醫者は、其職掌として、考へ方が、客觀的である、即ち患者をヨク觀察する事をする、決して自己の考へを患者に當て嵌めぬ、虚心平氣で患

者の狀況を看る、之れに反して、敎育者といふものは、主觀的に考へるから、己れの考へた事や、感覺した事を其儘兒童に當て嵌めんと勉める、卽ち醫者が心理的療法をやつて、效を奏する所から、敎育者といふよりも、ムシロ實地心理學者と謂つて良いといふのは、此理由があるからである、決して、醫者が、敎師よりもエライ利巧など言ふ譯ではないのである、以上の譯であるからして、醫者と敎師とが共同して、言語障碍のある兒童を治療するといふ事は、贊成が出來ぬ、餘談は別として、さて、吃りの豫防を矯正する事を述べるには、先づ順序として、吃りとは、一體如何なるものであるのか、又如何にして、發生して來るものであるか、又其治癒杯言ふ事柄に就て述べて置く必要がある、そこで此吃りといふものは、醫學の言葉で、而かもクスマウルといふ學者の說を借りて言ふて見ると、調節神經の病であると言へる、吃者は、發言する時に、其傍に誰も居らぬ、誰れも見たり聽いたりする者が居らぬと考へて居る時杯には、何の障りも無しに、發言する事が出來るのである、然るに、玆に自分は、思ふやうに自由に發言する事が出來難いといふ事を自覺したり、其觀念が起つたり杯すると、直に呼吸筋、發聲筋、調節筋杯に、痙攣が起つて來て、吃るのである、卽ち、言語機關の調節作用といふものは、驚くべき複雜なものであるが、此複雜な機關の働きが、神經の中樞から不良の影響を蒙むつて、言語を發する働きがウマク行はれぬ所からして、吃るのである、其他身體の色々な機關にも、此吃りに似た現象がある、例へば、不慣れな場所に出ると、面喰らつて、手足の隨意筋が、其調節運動を失ふ事がある、其結果躓づいたり、手に持つて居るべき帽子やステツキ杯を落したり杯する事があるのは、此類に屬する、それから泌尿器は、全く健全であるにも拘らず、膀胱に尿が一杯充ちて居るのに、少しも排尿をする事の出來ない事がある、是れは、例へば、他人が見て居るといふ考への起つた時杯に起る事柄である、斯

う言ふ類の障碍は、矢張り一種の吃りと言ふ事が出來るのである。

吃りの原因を述べて見ると、吃りに罹る人は、神經病の素因を以て居る人に多い、又急性傳染病が動機となつて、吃りを發する事も決して稀では無い、其傳染病の中で、殊に擧ぐべきものは、「ヂフテリア」麻疹、猩紅熱、「チフス」、流行性感冒等であつて、其外に外傷も此れに屬する、それから、吃りの眞似をして居ると、遂には、自身も吃りになつて了ふ事がある、此れを精神傳染と唱へて居る、書物を調べて見ると、此種のものは、珍しくは無いが、予の實驗した一人の吃者は、始めて芝居に行つた日から、吃り始めた、その他遺傳性吃りと言はれて居るものは、多くは、遺傳素質のある上に眞似をする所から來たものである、此種のものは、治療を施しても、思ふ樣に成績が擧らぬ、近頃予は、或る園丁の娘の子が吃りになつたのを治療した事があるが、效能が顯はれて、全く治つて了つた、然るに、二三ケ月の後に、又々再發して、吃り始めた、そこで、予は、他の吃る小兒と一緒に遊んで居たのでは無いかと聞いた所が、母の答へて言ふには、父が少しばかり吃りますと言ふた、そこで、又此子に治療を施して、比較的早く治して了つた、然るに、二三ケ月經つたら、又々吃り始めた、それで、今度は、父親が其子を予の所に連れて來た、で其父親の言葉を聞いて、予は、直に、此父は、非常に躁急の性質の人で吃りである事を知り拔いた、父親は、予の療法に至極不滿足で、行き屆かぬから、此のやうに再發するのであると小言を言ふた、そこで、予は、此父に向つて言ふには、手本を示して居る間は、此子の吃りは、永久に治癒する事は無いと言ひ聞かせた、そうした所が、件の父は、甚しく吃りながら、何を言ふのかと詰問したが、其後絕へて予の所を訪問しなくなつた。

吃りの多くは、言語の發達する時期に起るもので、約三歲乃至五歲の時に發して來る、併し此の年齡の

小兒は、通常少しは吃るものである、即ち生理的の吃りと謂ふて差支は無い、兒童の精神發育と、言葉を理會する精神能力と、それから自己の考へた事を言葉に顯はさうとする能力が、複雜な發語運動を營む身體能力に先だつた場合には、子供の言葉は茲に吃るのである、グッツマンが言つた如く、子供は、多少に拘らず、烈しく吃るものである、もしも子供が、甚しき神經病の素因を以て居らぬ時、且つ其周圍が靜かであつて、神經衰弱症の人が居ない時には、イクラか吃りは容易に矯正せられるものである、母親や教師杯が、ひどく吃りの小兒に同情したり、憐れむだり、或は、餘りに烈しく嚴格の態度を採つたり杯すると、吃りは、一向に治らぬものである。

それから六歳と八歳の間頃の小兒に、吃りを發する事が中々に多い、此場合には、學校授業を受けたが爲めに、精神に強い感動を蒙むつたのと又第二生齒期に受ける身體的影響との爲めに、吃りを發するのである。

それから多くの統計に徵するに、十四歳頃になつて吃りが多くなるといふのも事實である、丁度發情期の頃である、一體に吃りの兒童の三分の一は、就學の時に吃りに罹つたもので、三分の二は、吃りの儘で學校を卒業したもので、此れは、就學して居る間に、吃りに罹つたものである、成年期に達してから吃りに罹るといふ事は、大抵無い事で、若しあればそれは例外である。

そこで吃りの療法には古來種々の方法があるが、一番良いのは、グーツマンといふ人の方法である、是れはドーするのかといふに、呼吸と發聲、調節の常規運動は如何なるものであるかを例を以て兒童に示すのである、是れは、勿論兒童の精神發達の程度に應じてやるのである、そうして常規運動を教へながら、發語運動の妨げられる狀況を示し、此障碍を矯正する方法を教へるのである、此時兒童の意志の力と叡智と之れから醫者の熱心と實地心理學者たる

能力が甚だ大切なものである、吃りを治す積りで暗示を試みた人も多くある。方法も危險は無いが、併し永く此方法を續けても、永久の效果は中々に擧らぬものである。

吃りの原因は、上に述べた通りである、是れは、豫防を講ずる上に甚だ大切で、又原因が分つて居れば豫防法は、自ら分つて來る理屈である。

兒童の神經病的素因は、哺乳期或は出產前から出來る限り之れを除く事を勉めなくてはならぬ、併し此れは甚だむづかしい事である、父親が憂鬱症であつたり、母が「ヒステリー」であつたりする時は、小兒は、其發育の上に大なる感化を蒙むるものである、吃りの場合にも亦左樣である、此時兩親が小兒と分れて他の所に住して居れば、小兒の吃りを治すに大層都合が宜しいけれども、此事を兩親に納得させる事は、容易な事では無い、それで神經病の素因を以て居る小兒で、而かも吃りを始めかけて居るものを精神の健全な人ばかり居る所に移すのは、吃りの治療上唯一の方法であつて、同時に治癒する上に於て安全な道である、もし此れも行はれぬとならば、醫者は、心理的、理學的、藥物的の諸療法を試みるのである。

吃りの初期には、醫者たるものは、宜しく兒童の身體の狀況に眼を向けなければならぬ、例へば、呼吸運動を妨げるやうな事柄は、一切除く事を勉める、是れには、先づ、胸廓の疾病（佝僂病、肋骨、脊椎カリエス）、肺炎、肋膜炎の殘りを除く事をやる、それから、腸の中に瓦斯が溜つたり、或は、便秘して居るならば、是れを除く事をする、その外腹部の病で、橫隔膜の運動を妨げるやうなものをも、除く事をする、又小兒には稀であるけれ共、氣管、喉頭の病の外に、咽頭や鼻の異狀は、甚だ屢々あるものであるから、注意しなければならぬ、又咽頭口蓋の線が腫れ上つて居る事も、吃りの原因上中々緊要なものであるから、此腫れた腺を切り取るといふ事は、吃りの豫防上甚だ大切な事である、それから又鼻呼

吸を妨げるもの、例へば、鼻中隔の曲つて居るのや異物や或は鼻茸抔を去る事をするのも豫防上同じく大切である、又齒の生え方の惡いのも注意すべきものである、幼稚な小兒や生長した小兒に見る不道德の惡習慣も矯正しなければならぬ、それから急性傳染病の恢復期も注意しなければならぬ。

吃りの眞似をすると、小兒は、容易に吃るやうになるものであるから、媼母、子守り等のもので吃るものがあつたら、小兒の周圍から、他に去らせる事をしなければならぬ、是れは、羅馬のクインチリアンも言つた事である、又吃りの兒童は、それが全治する迄は、學校に出さぬ方が良い、吃りに限らず、舞踏病に罹つて居る小兒も、登校を禁じた方が良い、他の生徒が眞似をして、本病に罹る事であるからである、或人は、吃りの小兒を集めて、特殊の學級を編成して、敎育した方が宜しいといふ人もある、此場合には、吃りの矯正を知つて居る敎師が敎育の任に當るのが良い、併しながら、實際是れが出來るかどうか疑はしく思はれる、予の考へる所では、師範學校なり、大學なりで、敎師に、言語の生理と其療法とを敎へて置いたなら、授業の時に吃りを矯正するに都合が良かろうと思はれる。

吃りは、時としては、發情期に入つてから、或は、發情期以後になると、自然に治る事がある、併し是れは稀である。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二三）活ける家の主人の居室（中）

腦には數多の區分がある、頭蓋の腦天から額の方へかけ、腦全體の殆ど十分の八を占めて居るのが

大　腦

で、頭蓋の後ろの方から頸部の直ぐ上に位してゐるのが、

小　腦

であります。昔し秦の始皇帝の築き建てた阿房宮には、雲につつた龍の様な長い橋が架つて居り、晴れた後の虹の様な複道が空中にわたされてあつたと形容してあるが、大腦と小腦との間にも極く小さな橋があつて、其間に架つて居ります。ワロリーと云ふ學者が、始めて委しく此橋の事を記述たので、

ワロリー氏の橋

と云ふ。頭蓋の中に橋があるとは、讀者諸姉の大に不思議と思はるゝところで、今日迄夢にも御覧になつた事の無いことだらうと思はれます。小腦から脊髓の方へ續くところが、『生死の點』(Vitalknot)(Lebenspunkt)と云はれて居る

延髓

で、人間が無事息災に生活する上に於て、之より樞要な所は他に決してありませぬ。大腦は重要である小腦も無くてはならぬ、されど大腦や小腦は多少之を傷つけても生命には異常はないが、延髓の所は一寸これを傷つけても必ず即死を免れぬのであります。『眉間の一と打ち』とか、『頂門の一針』とか云ふ事がありますが、眉間よりも腦天よりも更に／＼生命の上に大事なのは延髓であります。何故にかくも樞要であるかと云ふに、延髓には生命をつないでゐるに無くてならぬ種々の作用の中樞があるからであります。就中心臟が日夜をわかたず血液を全身に分布し、肺臟が惡い空氣を吐き出しては善い空氣を吸い入れると云ふのも、一に延髓から其命令を仰ぐからで、若し此作用がなくなれば生命の根はこゝに全く枯れ果てねばならぬのであります。而かしながら尚ほ一つ延髓の作用として極く／＼必要なのは、

反射作用

と云ふもので、此作用は大腦に居る主人からの命令が無くとも、身體保護のために、全身各所に於て無意識的に營まれるものであります。例之ば火に近づけば思はず手を遠ざけて火傷の危險を避け、物が眼の前をかすめて通れば自と眼瞼を閉ぢて眼球を保護し、昆蟲が鼻孔に飛び込めば我知らず噴嚔が出て之

を噴き出して仕舞ふと云ふのも皆反射作用であります。又喀痰が氣管へつまれば咳嗽が出て之を喀き出し、身體の健康によくない食物が胃に入れば嘔氣を催ほして吐き出して仕舞ひ、塵埃や土粉が眼に入れば自然に涙で流し出し、飲食物が口に入れば唾液が分泌て消化を助け、咽喉の肉が引きしまつて之を嚥下ませると云ふのも、皆延髓から起る反射作用であります。延髓の大さと云へば長さ僅に一「インチ」半幅四分の三「インチ」に足らず、厚さも殆ど半「インチ」にも滿たぬのでありますが、其全身の生死に關する影響の重大なことは、寧ろ驚くの外はないので『生死の點』とは誠に能く云ひつくした言葉であります。

小腦は昔時生殖作用に關係のある樣に思はれ、後頭部の突出て居る者は多情の樣に云ひなされて居つたのでありますが、決して左樣なわけではなく、身體各部の運動を調節して其平均を保つのに必要な機關であります。從て大腦の樣に思想、感情若しくは精神作用を營む所のものではありませぬ。試に鴿の頭蓋を切り開いて小腦全部を除去て仕舞へば直ぐに死ぬのは云ふ迄も無い、が、若し其一部分のみを取れば、鴿の力は弱くなり、其運動の有樣が頗る拙劣になる。更に多くの部分を取れば完全に飛翔ぶことも歩行くことも出來なくなります、飛ばんと欲する意志だけは毫も害されては居らぬのでありますが、具合よく甘く飛ぶと云ふ力は失はれて居ります。視力は依然として舊の如く、聽力にも障碍なく、智力も亦た完全でありますが、其運動が思ふ通りにゆかず、見當違ひ、方向違ひの運動のみをするものであります。苟も一つの運動をするには數多の筋肉が歩調を一にして、相共に働くべき筈のもので、例令ば一と足蹈み出すにも六種の運動が必要で、之が爲めには十二個以上の筋肉が共同運動をしなければなりません。卽ち片脚を上げ、之を曲げ、前へ伸ばし、足尖を地に接け、次に踵をつけて全身の重量を委ね次に他側の脚を同樣にして始めて一歩を蹈み出すこ

との出來るもので、これは凡て小腦の支配によりて營まるゝものであります。

昔し有名なヒポクラテスは『身體の熱を冷やす機械が腦である』と云ふたそうでありますが、今日の學問から云へば

　精神の宿る所は大腦

で、人が萬物の靈たる所以、諸動物と異つて更に高き階級にある所以は、實に大腦の發達の優秀て居るためであります。故に頗る下等なる動物では、大腦を除去けてもコレゾと云ふ障碍も無く、一向平氣で居るものもあります。然るに人間ではこゝが運動、言語、思想、感情の中樞であつて、賢愚利鈍のわかるゝ所は實に大腦の善いと惡いとによるのであります。

大腦は全身各部を統御する中央政府のあるところでありますから、全身各部に行はるゝ出來事は細大となく、必ず大腦に報道されるものであります。例令ば春の花を觀れば、視神經は逸早くも之を大腦に報道して、『美しい』と云ふ感じを起させ、嚠喨たる音樂を聞けば、聽神經は速に之を大腦に通知して、『快い』と云ふ感覺を與へる。蚊に刺さるれば痒い。針で突かるれば痛い、火にさわれば熱い、水に觸るれば冷いと云ふのも、皆大腦から感受され。體が曲る、脚が歩く、手が垂れると云ふ樣な運動も凡て腦の支配の下に行はれるのであります。而して一國の政治に文部、陸、海、農商、遞信、内、外務省と云ふ樣な分界のある樣に、大腦にも亦幾多の中樞があつて各その司る任務を異にして居ります。例令ば感覺の中樞と云へば感覺のみを司り、運動の中樞と云へば運動のみを司り、言語の中樞と云へば言語のこと而已を取り扱つて居ります。

同じ運動の中樞でも、手の運動の中樞と、足の運動の中樞とは其所在部が違つて居ります。即ち大腦の或る部分は手の運動を、他の部分は足の運動を、又他の部分は顏の筋肉の運動を司ると云ふ具合になつて居ります。殊に右半身の運動中樞は左の腦にあり

左半身の運動中樞は右の腦にあるものでありますから、若し頭部に怪我をして左右何方かの運動中樞を傷つけたとすれば、その反對側の半身が自在の運動の出來ぬ樣になります。

中氣（或は卒中）

と云ふ病氣は是等の中樞を養つてゐる血管が破裂した爲めに起るものでありますから、每常半身の不遂やうになるのであります。

言語の中樞は、右手の人では左の腦にあり、左手の人では右の腦にあります、故に右手の人は左側の腦で談話をすると云ふわけであります。若し此言語の中樞に故障があれば

失語症

と云つて全く談話の出來ぬ樣になります。

五官器からの通知は必ず長く腦に保存さるべきもので、人の智識と云ひ經驗と云ふも、要するに此通知の集合により生ずるものであります。刄物を見て切れるもの、痛みを起す物と云ふ事を知るのは、曾て一度び身體を傷つけた時の感覺が腦の中に殘つて居るからで、例令ば生れてこの嬰兒の腦は白紙の樣に何物も書いてないが、漸次五官の働きに連れ、少しづゝ其感覺や印象が書き入れられて、遂には複雜な智識經驗を藏する樣になるのであります。此意味から云へば

大腦は活ける家の圖書館（ライブラリー）

で、此圖書館に藏せられて居る書册は、各人により名々か多少異るべき筈であります。甲のは主として數學書を、乙のは主に語學書を、丙のは文學書類をと云ふ樣に、各人その好むところに從ひ其內容を異にして居るわけで、日一日と又漸次增し行くのであります。殊に每日注意して聊かの經驗たりとも、之を取り逃がさぬ樣にして貯ふれば、その內容の豐富になるは驚くべき程であります。然るに茫然として深く注意を拂はなければ、多く見、多く聞ても、その貯ふる所は僅少であります。斯かる者を記憶の惡い人と云ふ。然らば記憶を良くするには如何にする

のが最良であるか。

頭髮のたしなみ（承前）

K。H。生

頭髮の薄くなる理由　頭髮が御婦人の最も貴重な自然の裝飾である事は前にも度々申上ましたが、お年が割合に更けて見えるとか若く見えるとか云樣な事は頭髮の濃さ薄さに關係する場合が非常に多いのであります、隨分お年を召した方でも御髮が豐かにありますと一寸お年を言當る事ができぬ位お若く見えるものであります。

毛髮の壽命は普通千六百日位である事は前にも申上ました、而して壽命を完致しました毛髮は枯木同樣に自然と脫落るのですが身體の發育の盛な時代では其後から後からと猶澤山の新らしい毛が生出ますので決して頭髮の薄くなる樣な氣遣はありませぬ、併し身體の營養が衰へるとか、或は外に何か毛髮の發育に故障になる樣な事がありますと、毛髮は一定の壽命に達するのを待たないで、普通よりも早く脫落るか或は早く折れて仕舞ひ、一方では亦後から生える筈の毛の生長が盛でなく、從つて頭髮が何時とはなしに細く短かく且その數も少くなつて仕舞には頭の地迄見え透く位薄くなるのであります、尤も頭髮の濃い薄いは各自の性來にもよる事でありますが、併し夫でも頭髮の薄くなる原因を極めて始終注意深い手當を加へますならば自然の美を發揮する事は左程難かしい事でもあるまいと考へられます。

年を老りますと餘病がなくても頭髮の薄くなるはもと是れ生理的の現象で別に不思儀な事ではありませぬ、其原因は全身の榮養が段々に衰て行く爲である事は申すまでもありませぬが、又近頃の一說では皮膚が張切て居ると毛の發育が惡く之に反して皮膚が緩で居ると毛の發育が盛んだと申す事でありまして、畢竟年を取りますと皮膚と骨との間に最も肉の少い從て皮膚が一番骨に近い顱頂部では皮膚が一

番強く張切る様になり夫で頭髮が此部に於て最も早く薄くなり初めるのだと申す事です、其證據には同じ頭髮でも皮膚の係り強く引張られぬ個處即ち耳の上、後頭などでは毛の薄くなる事の少いのを見ても御分りになります。

甚く心配をすると髮頭が薄くなると云事は昔から申傳て居りますが是は全く事實に相違ありませぬ、獨り心配事許ではありませぬ、一體に頭腦を使ふ仕事は頭髮の衰弱を早める傾きがあります、ですから頭髮の養生から申せば常に心を寛く持ち諦めをよくして餘り物事に齷齪せず、睡眠時間を十分に取り、又腦を使つた後では心の替る別の仕事を爲るとか云風に始終氣の安らかに心の静まる法を講じなければなりませぬ。取分け氣がいらいらするとか癇癪を起すとか云事は髮を衰へさす事は非常なものでありますからおたしなみが第一であります。

お産の後とか、貧血、神經衰弱其他一般に長く煩つた後で頭髮の急に薄くなる事は別に申上る迄もありませぬ、是等は一體に身體が衰弱し從つて毛髮の發育も悪くなるのであります、其外ちふすの様な傳染病のあとでも毛が薄くなりますが之も普通の衰弱から來るのと、又病氣によつては病原となる黴菌から出來る病毒が身體中に回つて其刺戟の爲に脫毛となるのもあります、併し病後に薄くなつた頭髮は一時は是で故の通りに成るでしやうかと危まれる許になつても、大抵は身體の榮養が恢復すると同時に追々又元の様な美しい毛髮が生えますから深く御心配なさるには及びませぬ。

病氣から起つた脫毛の中でも結核とか黴毒とか申すものから起つたのは病氣が慢性的のものでありますだけに一寸元の通りになると云ふ事は難かしいのです、其中でも黴毒は頭髮に取りては誠に恐ろしい病氣であります、頭髮の中で一番早く薄くなり易いのは顱頂部、額際などでありますが、夫が黴毒性のものでは却て後頭部から脫け初めるのであります、而して大抵は痒味を持て居る、櫛で梳くとか髮洗の折

には痛味も何もなくて氣の引ける程かたまつて抜けるのであります、黴毒性の抜毛でも其病の原因に對して適當な治療法を行ひますれば或程度迄は防ぎ止める事が出來るのですから斯云ふ場合には手早く根本の治療を加へる事が大切であります。

次に胃腸の工合も頭髮の薄くなる事に對しては誠に密接な關係を持て居るのであります、初中下痢を起したり又頑固な便秘があつたり、其外食後の運動が不充分であつたり致して始終消化が惡く鳩尾や腹部を氣にして居る方は如何しても頭髮が早くから薄くなる傾きがあります、是は胃や腸の内の食物が充分に消化れ切らず、其間には色々な變化が起つて身體の爲に良くない瓦斯や何かゞ出來、夫が亦胃や腸の壁から吸上られて血液の中に混り之と一所になつて身體中を循環るからであります、そして其不純な血液で養はれる毛髮は久しい間には追々其榮養が惡くなつて早く脱落ち又は丈が充分に延びなくなる、頭髮が一面に薄くなります、其外胃腸の消化が充分でありませぬと胃腸の中で身體に有害な一種の蛋白質が出來ると申す事であります、元來蛋白質の内には硫黄が含まれて居るものでありますが、其硫黄なるものは亦一方では毛髮や爪などを拵へるに大變必要なものであります、處で今胃腸の消化が充分でありませぬと、一方では蛋白を消化して體の中に取入れ樣とする硫黄の分量が少くなり、他の方では又一種特別な有害な蛋白質が出來るので硫黄の一部は其方にも使はれ、恁云鹽梅で身中の體液には硫黄の分量が少くなつて從て毛髮を造上げる大切な原料が不足するので毛髮の發育が惡くなるのであると云說もあります、兎に角胃腸の強弱と毛髮の榮養とは密接の關係がある事は確かでありますから、胃腸の弱い方は常に其方の手當を充分に致し、食事と運動とを規律正しく行ひ便通を良くし、胃や腸に物の滯らぬ樣にするのが大切であります、食物も何程滋養分が多いからと申しても肉食許でもいけませぬ、矢張肉類と野菜と適度に召上らねばなりませぬ、其外餘り濃

い茶や珈琲、胡椒、唐辛などの樣な強く刺戟する藥味も成るべく召上らぬ方がよろしい、又一般に御酒を召上る方は頭髮の薄くなり樣が早いと申しますが是も確に事實であります、酒を食る方は如何しても胃腸の消化力が弱く其上に汗をかゝれる事が多いので毛髮の爲に誠に宜敷ないからであります。

多汗症と申しまして汗の多過るのも是又頭髮を薄くする原因の一つであります、汗の中には尿水の中にあるものと同じなものが含まれて居まして此二つは互に極めて親密な關係を持て居るのであります、ですから夏の樣に汗の多い時には尿が少く、汗の少い冬の時分に尿の量が澤山なのを考へても分ります、而して汗の中にも尿水の中にも、人體の中で使盡してもう棄てる許になつてる老敗物が含まれて居るので、其老敗物は人體の榮養に取ては大變有害なものであります、腎臟の病などで一時尿水が出なくなり尿が體內に停滯を致し、尿中の毒が全身に行渡りますと尿毒症と云つて恐ろしい症狀を呈します、此位恐ろしい有害物が汗の中にも含まれて居るのですから、汗の出樣が多過ますと始終夫で潤される毛髮は遂には其害を受けて榮養が惡くなり一定の壽命の達する前に早く脫落ちて仕舞ふのであります、甚だしく肥滿てる方や、初中帽子を被て居る軍人などに禿髮の多いのは如何しても普通の人よりも汗の出し樣が多い故であると考へられます。

汗と同樣に頭髮の發育を妨げるのは頭が餘り甚だしく油ぎる事であります、毛の根には各自必ず毛の油を分泌する小さな嚢の附屬して居る事は前にも申上ましたが、其嚢から泌み出る油の多過るのも是亦毛の根を枯らす原因となります、此病氣にはその分泌物が油の有樣をして居て頭髮や頭の生地がねとねとするのと、今一つは其分泌物が乾て居て白い落屑となり俗にふけ頭と申す此二通あるのであります、此樣に頭の皮脂が多過て毛が薄くなると云ふ事は一般に男子の方よりも御婦人の方に多く、甚だしいのになりますと頭が痒いので無暗に掻きますと、後が痛

くなつて其處の油の分泌が一層甚しくなり頭一面水で潤らした樣にい、い、じくじくする事があり、或は又櫛が幾くら梳ても一夜も經ては元の通りに白い鱗の樣なふけが一面に頭の地を掩ふ樣になります、而して其場所も頭の顱頂部と額の生際が一番多い樣であります、恁云狀態で長く續きますと、頭の地の皮膚が追々に肥厚くなり毛穴が萎縮て仕舞ひ毛の養分も充分に行渡らぬ樣になるのであります、そして其毛の脫け樣も時には臺灣坊主か何かの樣に一部分丈丸く全く禿て仕舞ふ樣な事もありますが、大抵は久しい間に何時とはなしに薄くなるのですから、ふけの多い方は單に逆上質だからと云て放擲て置かないで矢張早くから適當の手當をお加へになる事が大切であります。

其外近頃の新らしい一說では頭髮の薄くなる原因は肺の上端の瓦斯の交換が不充分な爲にぷとまい、い、ん毒素と申す物が出來、其が血液の中に吸込れて體內を循環し毛の根の養ひを衰へさせるのだと申す事であります、而して男子に禿髮の多いのは男は總體に横隔膜運動即ち腹の方で呼吸を致しますからで、之に反して御婦人では重に胸と肩との呼吸運動をせらるゝのでぷとまい、い、ん毒の出來る事が少く、從て男子に比べて御婦人は禿髮の少いのも此理に基くからだと申す事です、ですから新らしい空氣の裡で深呼吸を行ひ、肺の上端の隅々までも淸く新らしい空氣が行渡る樣にするのがよろしいと申す事であります、此說はまだ一般の學者には認められては居ませぬが深呼吸は左樣でなくても身體のためには極めて良い事でありますからお試しになつてもよろしいと存じます。

其外に頭を器械的に激しく刺戟する事も頭髮を薄くする重なる原因でありますが、是はつれ禿の處で御話し致しましたから別に玆には重ねて申上ませぬ。つれ禿と同樣に耳の傍の目立て薄くなる方もありますが之は枕の刺戟によつて起るのであります、ですから恁云場合には成るべく軟な枕を撰び且つ折々場

所を替えてあてがう様にしなければなりませぬ。此外に猶濕疹の様なおでき、色々の寄生蟲、毛髪自己の病氣などが原因となつて頭髪の薄くなる場合も多いのでありますが夫等に就ては別に後で猶詳しく申上げる事と致しませう。

薄い頭髪の手當　頭髪の薄くなる原因に就ては上に申上た處で略盡して居る胸算でありますが、今度は更に進で其豫防、手當に就て申述様と存じます。前にも申ました通り、心配や癇癪は毛髪の養生の爲には大敵でありますから、頭髪の美を久しく保存し様と致しますには第一に精神の修養が大切であります、夫に次では時々髪洗を行つて夫を清潔にする事を努め、又不斷胃腸の消化をよくし便通を充分に致し、食物も餘り油濃いものや刺戟性のものは成るべく避けねばなりませぬ、若し病後の脱毛であれば總ての養生を正しく守つて一日も早く榮養を回復する様に爲なければなりませぬ、猶病後に頭髪の薄くなつた方にはえるだーふらわー、ろーず又はらうえんだー水で薄く溶いたぐりせりん劑を頭皮に揉みこむのがよろしい。

別に是と云病氣も無くて頭髪の薄い方には、藥を直接に毛の根に塗る外に猶適當な藥劑を内服して著しい效能のある事があります、其中で一番普通に行はれて居るのは砒石劑の内服であります、之は人間許でなく英國の名馬の産地すたいえるまるくあたりでは馬の毛の色澤をよくするためにも古くから之を用ひて居る相であります、砒石は皮膚の榮養を盛にする働きがあるので從つて毛髪の發生を助ける事は全く疑ひの無い事實であります、併し砒石は皆様も御承知の通り極めて恐ろしい毒藥でありますから之をお用ひになるのは醫者の嚴重なる監督の下に於てせられねば危險であります。

砒石に次で内服して利目のあるのは硫黄劑であります、前にも申上た通り硫黄は毛髪を拵へるには誠に大切な材料でありますから是を内服して其足らぬ處を補ひ毛髪の發育を充分にするのであります、亦一

方では硫黄は頭髪の餘り油ぎるのを防ぐ働きもありますから此點から云つても毛髪のためには確かに利目のあるものです、蘇格蘭あたりの牧羊者が羊毛の色澤を美しくする目的で飼薬の中に硫黄を混せて食はせるのも亦此原理に基くものと考へられます、硫黄の用ひ方は淡降性硫黄一瓦に適量の砂糖を混せてちよこれーとの様にし朝夕の二回宛、食後一時間程經てから其一箇宛を内服するのであります、併し其時にも猶色々特別な注意も要りますから矢張前以て醫者に充分御相談なさる方が安全であります。

其外猶前にも一寸申上た様に食物の注意も必要であります、西洋でも膠質の物を食べると一般に毛髪の色澤が美くなると申しますが、是は我國でもひじきやぜんまいを食べると毛髪が濃くなると云ふ古くからの申傳へに一致して居るのであります、何故かと申しますと此種の物の中には膠質が澤山に含まれて居るからであります、ですからたまには恁云類の物を召し上がるのも毛髪の爲には決して惡くはありません。

次に内服の方でなく直接に毛髪に對しては如何云ふ手當をすればよい乎と申しますと夫には色々の仕方もありますが先第一に頭の地の皮膚の榮養を良くし夫を丈夫にする事が大切であります、此目的にはらむや、ういすきーを薄くのばして之を頭の皮膚のぽつとする迄指頭で揉込むか、又は黄色わせりんを同じ仕方で頭皮の中へ揉込むのも效能があります、其外蒸餾水六合にろーずまりー一磅許入れ、夫を蒸煮にし、其漉した液にべーらむ一合半許加へたものを、毎日朝と晩との二回宛毛の根に揉込むのもよろしい。

世の中には薄毛や拔毛が目立つて來ると、拔け毛の多くなる原因に對しては何の手當も仕ないで居て只初から無暗と毛生液を塗る様な方がありますが、是は少しも效目が無い許でなく或は却て夫が爲に拔毛を多くする様な恐れがあります、拔け毛の多い間は頭髪の刺戟になる様な事は成るべく避けて髪を洗ふ

のにも最も刺戟の少い綠石鹸を用る位にするのがよろしいのです、夫でも猶拔毛の止まらぬ時には毛生液を塗る前に先づ局部の充血を治す爲に毛の根へ次の收斂劑を擦込むのです。

精製硫黄	一ぐらむ
さるちーる酸	一ぐらむ
單寧酸	二•五ぐらむ
黄色わせりん	五〇•〇ぐらむ

夫でも猶拔毛がとまらず頭の地が追々に禿髮に成る樣でありましたら其時に初めて毛生液を用ゆるのであります、毛生液には何れも強い刺戟劑が配合してあるので夫が皮膚を刺戟し毛髮の發生を促すのであります、ですから之を拔毛の多い最中に使ひますと毛髮の發生に何の效能もない許でなく却て頭の地の病氣を盛にする樣な患があります、頭の地に炎症や充血の盛な時には何時でも其症狀の無くなるのを待て其後で用ひなければなりませぬ、又毛生液の働きは刺戟によつて毛髮の發生を促す丈ですから元來毛根の無くなつた處に用ひたとて之は何の效能もありませぬ。毛生液には種々の酒精劑、中にも犬菁丁幾、なふとーるすぴりつす、かるぼーるあるこほる等は最もよく用ひられるものでありますが、近頃では又はーるざるべーと申す膏藥が最も效目があると申す事であります、此等の藥はどれでも夫を使ふ時期を誤らず且つ根氣よく持長して使ひますれば其效能のある事は少しも疑がありませぬ、猶其藥の強さや用ひ方は頭髮の模樣によつて夫に特別な注意を必要とする場合も多いのですから有合せの毛生液を無暗に塗る樣な事は成るべく避けて矢張一定の醫者の監督の下に於てなさるのが安全であります。

（以下次號）

育　兒

育兒瑣談（其四）

H。S。生

（五）乳母の事

生母の乳を得る能はざる場合、例へば、母が死亡せし時は勿論、假令、生存して居るにしても、乳の分泌せざる時、又は分泌の量少くして、小兒を養ふに足らざる時、或は乳嘴畸形にして、小兒の哺乳に差閊ある時、母の年齡が四十越えたる場合、母體に黴毒、脚氣、結核、癲癇、癩病、癌腫、精神病、神經病等のありたる場合にありては、止むなく乳母を選定せねばならぬ。

乳母は、單に乳を授與するのみならず、乳母と乳兒とは、言はゞ親子の關係をなすわけであるから、假令乳母は、その乳兒を生まざりしにもせよ、多年哺育しては、我が子と同樣に可愛ゆくなり、又小兒の方でも母と思ふ樣になる、從て乳母の感化は、全く生母に讓らぬ力を持つて居る。

されば乳母の選定は、十分精密にして、手拔かりがある樣では、後に大なる禍を貽すことがある。

第一に乳母の乳汁の性質、身體、精神等は、これを精密に詮索を遂げねばならぬ。傳染病例へは結核、癩病、生殖器病殊に花柳病の如き、其他尙ほ精神障碍のするもの等は、無論不合格としなければならぬ。

されば、乳母たらんものは、須らく、强健にして、溫順、愛情に富み、快活にして淸潔を好み、尙ほ哺育に經驗あるものを以て、最上としなければならぬ。

乳母が分娩したる時期は、生母のそれと、近ければ近い程宜しい、相前後することの甚だしき程、不利である。これ乳汁の分泌は、其小兒分娩後の經過の

長短によりて、違つて來るからである、殊に生れてから、稍々月日を經過した乳兒に、分娩後極めて日の淺い、乳母の乳は宜しく無い。

乳母は、社會上、又人間の生活上、乳兒の家に置かねばならぬ。

乳母が、飲食物に注意を要すべきことは、今更らことごとしく說くまでもないが、強い刺戟性のもの、「アルコホル」含有の飲料等を避けるべきことは、一般授乳者の注意の條下で述べた如くである。

乳母は、また怠惰者では、困る、快活にして、運動を好み、新鮮な空氣の中で、天然の榮養を吸收し、又室内も淸潔に保つを要する。

乳母の外出に際しては、常に注意と監督とを要する。

若し不幸にして、乳母が、男子との交通によりて、思ひも寄らぬ奇禍を購ふ如き場合にありては、其乳兒も、また共に其禍の紐に結ばれねばならぬからである。

乳母の精神狀態の異常によりて、乳兒の嘔吐を招き、又は消化不良の爲めに下痢を催す如きことあり。

生母は、素より乳母に對して十分の愛情を注がねばならぬ。然し乳母の生活狀態は、つとめて平常のそれに懸隔を造らぬ方が宜い、又一人の乳兒に、一人以上の乳母をつける要はない。これは乳の成分が變つておるからである。

申すまでもなく、生母はまた乳母の監督者となり、陰に陽に乳母の素行を監し、乳母の精神をして優美に、豁達に、そして柔順に保たしめねばならぬ。

家庭衛生

衛生雜話

H.S.生

(二)結婚の話(上)

結婚は、一人の男子と、一人の女子とが、愛の連鎖

によつて、終世の間、相互に、其靈と其肉とを共にする處の契約でなければならないのである。

結婚をするには、各々其國の法律に從はねばならぬ、然し單に其法律の範圍を脱せざるのみならず、法律以上に道德上の意義が加はらねばならぬ。

君子の道は夫婦より始まると言ふことがあるが、此夫婦は、實に結婚によりて成立するのである。

結婚の成立につき、歴史的に考へて見ると、實に種種で、ある時は、一人の男が、一人の娘を奪つて來ある時は、娘を賣買し、ある時は、別に夫婦と云ふものをきめずに、共同的に交通し、あるひは、一人の男が、一人以上の妻を持ち、又は一人の婦人が一人以上の男を我が夫とすると云ふ具合で、頗るいろ〳〵であるが、苟くも終生苦樂を俱にし、偕老の目的を遂せんとならば、あくまで一夫一婦でなければならぬ。

文明を持つて來る使は、一夫一婦の精神的愛になれる結合である、何れの國にか、夫婦の道紊れて、隆へた所があるだらふか。

結婚は洵にすべてのものゝ母と言ふことが出來る、『我が花婿よ、我が花嫁よ、父と母、我がいとしき子』これ實に人類のある所以である。

結婚は、啻に人間に限つたことではない、動物にもある、而もそのうちには、頗る美はしいものがある例へば類人猿、鴛鴦、燕、鳩の如きこれである、動物の結婚と言ふものは、只その持續が短い。

掠奪の方法やら、購買、寄贈の樣な結婚が行はれた時代は、まるで花嫁になるものを一個の人間とは見なかつたので、何か非人格性の物質か、或は高々家畜位に思つて居つたのである。斯かる程度の間では眞に結婚による愛と云ふものは、根本から起るものではない、丸で奴隷視して居つたのである。

文明時代の結婚は、唯現在のことのみを思はず、未來のことを思つて、子孫の爲めを謀るのである。虚弱い人が強い子供を生むことは出來ない。

結婚をなすに方り、個人よりも種々なる社會的の關

係を重ずることは、寧ろ悲しむべき現象である。宗敎上の關係も餘程深く國民を支配して居る所がある、これは寧ろ害よりも利益の方が多いであらう。倫理の上から言つて高潔無垢の夫妻が、美はしい愛の鎖りに結ばれたならば、法律だとか、條令だとか宗敎だとか言ふものに支配されたより、ずつとうるはしいものである。それであるから、倫理上の高い高い階級に坐せんとならば、人間以上になつて、法則とか何とか言ふものを超越せねばならぬ、けれども此は中々何人も達せらるゝとは言へない。

右にも一寸逃べた如く、結婚は終生苦樂を共にする契約のかたまりであるから、社會上の關係よりも、先づ第一に、その相手の個性を檢べねばならぬ。

肉體上より、精神上より。

第一に數へるべきものは、美はしき品性である。美はしき品性は、其生涯をして、生甲斐あるものとし光榮あるものとするので、品性の下劣なものは、人生をして無意味に終らしむるのみならず、動もすれば社會を毒し、人に厄介をかけることがある。

第二は、生理上の問題である。肉體の强健なるは器械の堅固なると一般、命のまゝに動くことが出來る顏の奇麗なのも美には違ひはない、併し全身の健康なるは、面積がひろい丈け、それ丈け好い。

人生は到底器に水を盛るのと同じである、器が破壞すると、水が、外にもれて出てしまう。

此肉體を檢べるには、本人其ものについては勿論のことであるが、更に遺傳の關係を檢べる必要がある。

黴毒、癩病、精神病、神經病、結核、近親、血友病、卒中、種々の畸形等の如きは、直接に又は間接に遺傳することが多い。

遺傳は單に肉體のみではない、精神上にも大なる關係がある、偉人は決して偶然に出るものではない。

其外まだ重要なる關係を有するは、年の問題である。

我國民法上の結婚年齡の最下限は、男子は滿十七歲

女子は滿十五歳である。各國の結婚年齢を見ると、男は十八歳より十四歳、女は十六歳より十二歳までいろ〳〵である。男女其差の最も多きは四歳（獨逸）最も少きは零歳（墺地利帝國）である。

右の年齢は、法律上結婚し能ふ最少限の數字であるが、習慣は第二の法律となるものであつて、男女何れも二十歳以下では、結婚するものが少い。

もとより、其國の風俗、習慣、季候、人種等によつて差異の生ずるは勿論である。

英國の各年齢に於ける女子の結婚者は、百人中、二十歳乃至二十五歳のものが五十人、之に亞いでは、二十五歳乃至三十歳のもの十八人、次に三十歳乃至三十五歳のものが十五人三分、つぎには十五歳乃至二十歳のものが十四人五分で、其他は何れも僅少である。

男子は、二十五歳から三十歳までが最も多數を占めて居る。

我が國の統計を見ると、矢張り英國の如く、婦人は二十歳乃至二十五歳のものが最も多いけれども、これに亞いでは、却て二十歳以下のものである、然るに此年齢は、年と共に減少して、明治三十二年には百人中、三十三人九分であつたのが、明治三十七年には、二十九人六分とまで減じて、其減少の割と云ふものは、年々に階段狀に降りつゝある。

男子の方はどうかと見ると、最も多いのは、二十歳乃至二十五歳であるが、これも年々減少し、二十五歳乃至三十歳のものが、年々増加して、明治三十二年に約十人も少かつたものが、明治三十七年に於ては、二十歳乃至二十五歳のものより、少きこと僅に一人となつた、遠からず、遙にそれを超越することとなるであらう。

統計の示す處は右の如くであるが、實際上、學問上の根據は、其年齢の標準をどうたてるであらうか。

これに對しては、少しく說明を加へねばならぬ。



雜報

○猫畜飼養に關する告諭

曩に內務省に於ては各府縣に通牒を發せられしが、これに基き東京府知事及び警視總監は、本月六日左の如き告諭を發したり。

警視廳東京府告諭號外

鼠族驅除は「ペスト」豫防上極めて緊要のことに屬するを以て從來器具其他諸般の方法に依り各自之を勵行しつゝありと雖尙家毎に猫畜を飼養するに於ては除鼠上益する處蓋し鮮少ならざるべし、大阪府、兵庫縣等に在りては該病の發生繼續し其病毒俄に熄滅に歸すべき傾向なし府下に在りては幸に昨年來「ペスト」患者及「ペスト」鼠の發生なしと雖海陸共に該有病地方と頻繁の交通關係を有するを以て病毒の侵入を未然に防止すると遺漏なきを努め平素に於て偏く猫畜を飼養し器具其の他の方法と相俟ち鼠族の驅除を勵行し「ペスト」豫防の效果を收めむことを期すべし

○市の衞生事業

東京市の衞生事業が諸般の施設に比べて頗る遜色あるは種々なる原因に依るべきも主として事業に成績を擧ぐるに容易ならざる故從つて多額の經費を支出するを肯せざるに由るが當局者と雖も改善に就ては苦心を爲し四十二年度に於ては多少面目を一新せんことを企圖したり第一は汚物掃除法の改善にて掃除人夫の巡回惡き爲め塵芥の始末に就き苦情斷へ間なきは畢竟請負の上に不十分の所あるを認め今後は掃除事業其の物のみを請負とせず各區に配置すべき掃除人夫の配り方をも併せて請負ふことにする筈にて六日目毎には必ず毎戶を巡廻する事とし尙は掃除票なるものを拵へて各戶に配ばり人夫の掃除に來らば印を付て貰ひ又た監督員は之を一々檢査して檢印を爲すといふ風にせば苦情も少なくなり成績も擧がることにならんとて從來八萬圓の經費を十一萬圓に增加する豫定なり第二は河の中の芥掃除にて是迄土

木の管轄に屬したるを衛生課の事業に移したる故新に河川掃除出張所を造り其の成績を舉げんとし第三は撒水區域の擴張にて從來市は丸の內馬車道廣場橋の上等に於ける撒水を行ひしが尙ほ東京府より市內樞要の道路をも行ふべき命令ありたるを以て四十二年度には約十萬坪區域を擴ぐることとし四十三年度には更らに增加して總區域は現在の二倍八十萬坪以上に達すべしと第三は駒込病院の增築にて現今の設備は約二百名の患者を收容し得るに過ぎざれば實扶垤里亞、赤痢、腸窒扶斯等の流行少しく激しき時は廣尾病院を開く等なるも僅か許患者の超過したりとて一々廣尾病院を開くは手數容易ならざる上に不便なるを以て約六十名の患者を收容し得る病室を增築し尙ほ從來の建物をも改築する爲め二萬千餘圓の臨時費を要求したる由第四は深川消毒所の消毒罐を改良するのみならず大に事業をも擴張する由にて同所は傳染病を出したる家の衣類寢具等を消毒するは勿論洗濯職人も居れば西洋洗濯迄も廉價に洗濯し電話又は端書にて申込めば迅速に人夫を出して受取配達を爲すと云ふ。

○理想的針按術

前身は小學校長にて鹿兒島縣揖宿郡喜入村有川武利(四十三)といふ盲人は去る三十三年中東京盲啞學校に入り針按術を修め後今日迄普通科教師として同校寄宿舍にあり其以前は縣の師範學校を卒へ四年間卷固尋常高等小學校長に奉職せしが二十八年中軍隊歡迎の爲め生徒を引率して鹿兒島市に向ふ途中過激なる驅足の結果俄然卒倒したるが原因となり遂に終世不治の眼病に罹りしにぞ茲に志を轉じ針按術研究の爲め知事、師範學校長等の盡力にて右盲啞學校に入學したる者なるが其熱心の程度も亦世の常ならず此間寢食を忘れて念を二法の改良に盡瘁せし效空しからず遂に本人獨特の針按術を發明し今日にては同人の技に信賴して治療を請ふ者少からず、此有川針按法といふは從來の日本按摩と同じからざるは勿論マッサージとも全く其方法を異にし兩手の指にて强

く各部の筋肉を壓し永く其壓力を放たしめず又針も從來東西の針術に用ひし物によらず別に同人の工風せる物をば放針と稱し打ちて後一定時間内其儘に置くといへり大體の遣り方にて從來の針按が解剖生理にのみ依賴し神經又は血管の病氣には其局所だけ治療を施し全體を忘るゝこといふ如き缺點あるは不可なりと氣著き第一に實驗を重んじ歸納的に此域に到りしものなりと言ひ居れり。

○獨得の長壽法

赤阪區靈南阪町二十四石山友誠(六十九)氏は舊明石藩松平直德子の家臣にて昔は祿百二十石を食み五人扶持を給せられ勘定奉行まで勤めしが今は法學士商業學士など立派な子息の父として常ならば樂隱居の身分なるが天性働き好きの友誠氏は風月に月日を送るを好まず今も終日香川邸の會計を勤め居れるが七十歳の老齡矍鑠として壯者を凌ぐ槪あり其の出來を聞くに三十年來行ひ來れる獨特の體操によれりと言ふ其の發明の體操は數ある中に第一には先づ豫備として兩方の耳朶を幾回となく摩擦し次に四股を踏みて脚部と肩骨の運動をなし第三に足を下部より上部に摩擦し第四に兩手を頭上に擧げ指と指とを頭上に逆に組むと同時に兩踵を上げ、更に手と共に下す第五は兩足を極めて迅速に而も活潑に前方に蹴出す動作なり、氏は朝六時起床し先づ深呼吸をなすこと十數回次で全身殘るくまなく冷水にて摩擦し然る後獨特の體操をなすこと一時間其間の動作極めて敏活にして殆んど壯者も及ばず斯くて神佛に祈願し膳部に向ふを常とす、强壯斯くの如くなれば人車電車には容易に乘りしことなく大抵徒歩するを常とせり、されど取る年波の耳は稍遠く時として聞きとれぬことあれど目は至つてよく眼鏡こそ用ゆれ新聞など讀むに少しも不自由なることなし、時々肩の凝ることあれど決して按摩にかゝることなく其度毎に自家案出の體操をなせば直ること忽ちなりと云ひ居れり食事は定めて朝二膳半晝晩とも三膳づゝ煙草は好きなれど酒は養生のため一合位用ゆるのみ、只道樂は謠ひと

撃劍柔道弓術碁將棋と何一つ嫌ひなるはなけれど此頃は只謠ひを唸るを何よりの娯樂となし居れりと。

大日本婦人衞生會記事

○本會二月例會

二月六日(土曜日)午後一時半より神田一ッ橋通り女子職業學校内に於て本會の例會を開き、先づ富士川ドクトルは『身體及其保護』の續き小便の事に就て小便が身體の瓦斯となり肺、皮膚、腎臟並に膀胱等其他糖尿病より排泄し來る理由を述べられ、次で森田醫學士は『精神療法の話』の題下に於て先づ精神と身體との關係より外界と精神及び身體と外界の關係を軍隊組織に譬へ其他加持、祈禱、呪詛、催眠術等に說き及ぼして面白可笑く興味ある講話を試みられたり、傍聽者は約そ百餘名なりしが同三時半頃閉會せり、當日出席せられし役員は左の如し。(出席順)

丹波貞子　羽田三緒子　鍋島榮子
松平芳子　小川幸子　山本多穗子
濱尾作子　三浦敎子　岸澄子
宮本樂子　鳩山春子　高木鐵子

夫れより別室に於て直ちに役員會を開かれしが鍋島會長を始め濱尾副會長其他幹事評議員十數名にして本會の總會及び懇親會の事どもを協議せられ、次で月次當番幹事を抽籤にて定めらる、夫れより茶菓を供して曩に淸國より歸京せられし本會々長鍋島侯爵夫人には淸國觀察の面白き土產話抔ありて談笑の裡に散會せしは點燈頃なりき。

○新潟支會

一月六日午後一時より當市高等女學校に於て當支會及び婦人敎育會、帝國婦人協會、新潟支會は合同の上、新年會を開催せしに出席者約九十餘名にして先づ北村きい子は三會を代表して開會の辭を陳べ、次で來賓たる高等女學校敎頭安田信吉氏の祝辭及び當支會幹事和田くに子の新年に就ての感話あり、餘興として衞生幻燈、講談、琴曲、手品等ありて非常の盛會なりしが一同歡を盡して散會せしは五時過ぎなりし。

○山形支會

一月七日午前十時より千歲館に於て篤志看護婦人會と愛國婦人會及び婦人衞生會と合同して新年會を開

く、當日は三會合同の事なれば多数の出席者ありて頗ぶる盛會なり、席定まるや先づ佐柳夫人開會の辭を陳べられ、次で來賓の祝辭あり、夫れより宴會に移り、餘興には踊り、義太夫、福引等の催しありて各自歡を盡して散會せしは三時頃なりし尚ほ來賓に馬淵知事佐柳内務長秋警務長及び各講師にて來會せられしもの百餘名に及びたりき。

〇本會入會者

〇事務所申込

●靜岡縣田方郡中大見村 通常會員 山下百合子

〇松平芳子紹介

●芝區公園五號地三 特別會員 宇野きよ子

●赤坂區一ッ木町八十 特別會員 伊藤久子

〇山梨誠子紹介

●豐橋市松山町松操裁縫女學校 通常會員 中野きぬ子

〇齋藤氏紹介

●神田區同朋町廿一 通常會員 早川つね子

〇山形支會

● 通常會員 野呂梅子

● 通常會員 山田さき子

〇宇都宮支會

〇武居つる子紹介

● 通常會員 足利かす子

● 通常會員 近藤てい子

● 通常會員 岩下幸子

● 通常會員 荒井よう子

● 通常會員 高橋さだ子

〇福井よし子紹介

● 特別會員 堀口とみ子

〇茨城支會

● 通常會員 本田時子

● 通常會員 堀田玉子

〇新潟支會

〇竹山れつ子紹介

● 通常會員 荘田りき子

〇轉居

●仙臺市本荒町四へ 椿たか子

●久留米市篠山町三六四へ 相良濟子

●豐橋市松山町五二へ 山梨識子

●富山市千石町三三へ 奥村ふみ子

●豐橋市東八町六六へ 山内訓子

●小石川區小日向臺町二ノ二九へ 久保田不二子

●本郷區駒込西片町二〇へ 風間明子

●樺太豐原守備隊司令部官舍へ 町田まつ子

●臺南衛戍病院前官舍へ 近岡ちか子

●福知山步兵第二十聯隊留守隊へ 岩淵なな子

明治四十二年一月現在

私立大日本婦人衛生會會員名簿

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衞生會名簿

總裁東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子
幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木錄子
同 山本多穗子
同 松平芳子
同 三浦敎子
評議員 石川さだ子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 穗積歌子
同 土肥多越子

評議員 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部隈子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子
同 山口てい子

本會贊成員（順次不同）

（●本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

本鄉區新花町	醫學博士	●入澤　達吉
小石川區戶崎町六十一	理學博士	●飯島　魁
京橋區南鍋町一丁目七	ドクトル	●伊澤　信平
		●色川　圀士
地方	醫學博士	●伊東　祐彥
本鄉區弓町二丁目	ドクトル	●飯盛　挺造
地方	醫學博士	●伊藤　隼三
麴町區平河町	赤十字社	●岩井　禎造
四谷區大番町十九	理學博士	●石川千代松
小石川區金富町三十三	帝國大學總長男爵	濱尾　新
神田區北甲賀町十	醫學博士	●濱田　玄達
小石川區音羽七丁目十	法學博士	●鳩山　和夫
赤坂區新町三丁目十五		秋原彌四郎
	醫學博士	●芳賀榮次郎
本鄉區元町一ノ二		●長谷川　泰
本鄉區東片町百十六	醫學博士	●緒方　正規
麴町區下二番町四十六	醫學博士	●土肥　慶藏
麴町區三番町三十六	醫學博士	●岡田和一郎
本鄉區東片町百三十一	醫學博士	●大澤　謙二
	醫學士	●大西　秀治
本鄉區曙町十六	醫學博士	●大澤岳太郎
本鄉區弓町二ノ二十一		●恩田　重信
麴町區上二番町四十四	文學博士男爵	●加藤　弘之
麴町區五番町十四	醫學博士	●加藤　照麿
神田區小川町五十一	醫學士	●賀古　鶴所
麴町區富士見町四ノ四	醫學博士	●河本重次郎
本鄉區西片町十、ろノ二	醫學博士	●片山　國嘉
本鄉區龍岡町三十四		●金谷　彥二
本鄉區東片町十		●神尾　駿
神田區北甲賀町	醫學博士	●金杉英五郎
秋田縣小坂鑛山病院	醫學士	●米山　彥郎
芝區芝伊皿子町七十五	ドクトル	●高山　紀齋
京橋區西紺屋町十	醫學博士	●高木　兼寬
麴町區內幸町一丁目三	法學博士	高木　豐三
下谷區練塀町田代病院	醫學博士	●田代　義德
赤坂區高樹町八	男爵	高崎　正風
神田區駿河臺鈴木町二	醫學士	●高田　耕安
本鄉區駒込妙義坂二五三	藥學博士	●丹波　敬三
下谷區東京衛生試驗所內	醫學博士	●田原　良純
	醫學士	●田村化三郎
本鄉區弓町二ノ二十四	大日本教育會長男爵	辻　新次
本鄉區西片町十、いノ十一	理學博士	●坪井正五郎
麻布區本村町四十四	男爵	南部　甕男
麴町區有樂町胃腸病院	醫學博士	●長與　稱吉
赤坂區青山南町七丁目三	理學博士 藥學博士	●長井　長義
麴町區下二番町七十四	醫學博士	●中濱東一郎
本鄉區彌生町二、はノ十七號	醫學博士	●隈川　宗雄
麴町區富士見町五丁目三	醫學士	●山根　正次
京橋區築地三丁目十五	醫學士	●山田　鐵藏
本鄉區駒込千駄木町五十七	東京衛生試驗所	●丸山長四郎
麻布	男爵	●後藤　新平
本鄉區元町	ドクトル	●小此木信六郎
小石川區指ヶ谷町盲啞學校	盲啞學校長	●小西　信八

住所	肩書	氏名
赤坂區青山南町二ノ四十二	醫學士	●古川　榮
小石川區高田老松町二十一		布施　正顯
歸國中		●エ、ベルツ
日本橋區藥研堀町	醫學士	●甲野　棨
小石川區豐川町二十四		●寺田　勇吉
芝區高輪車町八四		宮川　保全
本鄕區駒込千駄木林町九		●澤崎　寬制
神田區北甲賀町十四	子爵	秋元　興朝
牛込區東五軒町十四		足立　寬
神田區北甲賀町十一	醫學博士	●佐々木政吉
橫濱	ドクトル	●朝山　義六
日本橋區矢ノ倉櫻井病院長	醫學士	●櫻井郁二郎
福岡醫科大學教授	醫學博士	●櫻井恒次郎
府下品川大横町		齋藤　清文
麴町區三番町三十二	醫學博士	●榊　順二郎
麻布區今井町二十二	醫學士	●北村　精造
本鄕區森川町一、中通百〇六號	醫學博士	●木下　正中
	ドクトル	●北川乙治郎
神田區三崎町三丁目一	醫學博士	●三浦　守治
神田區北甲賀町三	醫學博士	●三浦謹之助
麴町區内幸町一ノ三	醫學博士	●三島　通良
小石川區竹早町八十一	醫學博士	●三宅　秀
熊本		●ミスリデル
小石川區竹早町八十一	理學博士	●箕作　佳吉
神田區雉子町三十一	小兒科	●宮本　仲
神田區裏猿樂町	醫學博士	●三輪信太郎
地方	醫學士	●島村　俊一
小石川區林町六十二	伯爵	土方　久元
麴町區飯田町六ノ十九	醫學博士	●弘田　長
小石川區春日町四十九	ドクトル	●須田　卓爾
神田區小柳町十三		小髙　良造
神田區西小川町二ノ五	醫學博士	●栗本　東明
麴町區中六番町二十四	藥學博士	●髙橋順太郎
神田區南甲賀町十七	醫學博士	●朝倉　文三
京橋區數寄屋町三ノ七	醫學博士	●林　春雄
四谷區内藤町一	醫學博士	●橫手千代之助
本鄕區千駄木林町五		●三田谷　啓
芝公園五號	醫學博士	●北里柴三郎
下谷區徒士町三丁目五十八	醫學士	●笹川三男三
福岡醫科大學教授	醫學博士	●榊　保三郎
麴町區虎ノ門内女學館内		西田　敬止
歸國		●ミスヒユース
小石川區大塚窪町四十三		髙嶺　秀夫
神田區元柳原町三十		●原　胤昭
小石川區關口臺町二十一	醫學博士	●吳　秀三
神田區猿樂町十二	婦人科	●水原　漸
日本橋區本石町二ノ七	醫學士	●田村　光顯
福岡醫科大學教授	醫學士	●久保猪之吉
本鄕區西片町十、ろノ十號	醫學博士	●佐藤達次郎
四谷區本村町三十七	ドクトル	●山上　兼輔
神田區小川町六十	醫學博士	●宮本　叔
日本橋區吳服町二十	ドクトル	●志村　誠曆
牛込區市谷谷町九十一	陸軍步兵中佐	●堀内文次郎
本鄕區曙町十七	醫學士	●石原　久
東京醫科大學衛生學教室	醫學士	●石原喜久太郎
洋行中	醫學士	●唐澤　光德

小石川		●ミセスコーツ
本郷區西片町九	ドクトル	●富士川 游
芝區三田二ノ十四	ドクトル	●松山陽太郎
四谷區坂町五十六	醫學士	●山田 弘倫
下谷區練塀町三十五	醫學博士	●桐淵 鏡次
本郷區千駄木町二十二	醫學博士	森 林太郎
本郷區弓町二ノ二十三	醫學士	●橋本左武郎
麹町區六番町三十一		●島田 三郎
海軍々令部	子爵	●小笠原長生
府下巣鴨村一八二八	醫學士	●栗本 庸勝
麻布區廣尾町六	醫學士	●內野 仙一
麹町區元園町一ノ四		●土田園之助
本郷區駒込東片町百五十二	醫學士	●磐瀬 雄一
神田區裏猿樂町六	醫學博士	●能勢 靜太
神田區駿河臺鈴木町十六	醫學博士	●遠山 椿吉
東京醫科大學皮膚科	醫學士	●大野 豐太
神田區東紺屋町六	醫學博士	●木村 德衛
日本橋區蠣殻町二ノ三	ドクトル	●日高 昂
赤坂區表町三ノ三六	醫學士	●寺田 豐作
日本橋區矢ノ倉町二	醫學士	●寺田 織尾
本郷區臺町廿七鳳鳴館內	醫學士	●澄川 德
日本橋區品川町八	醫學士	●樫田龜一郎
神田區猿樂町	醫學博士	佐藤 三吉
下谷區彌生町二	ドクトル	●佐藤 運雄
日本橋區大傳馬鹽町十四	醫學士	●佐藤 得齋
日本橋區北島町一ノ三十三	醫學博士	●岡田 榮吉
牛込區二十騎町十七	醫學博士	●北島 多一
日本橋區本町一ノ十二	ドクトル	●菊地 循一
淺草區須賀町	醫學士	●鳥居 春洋
本郷區駒込淺嘉町七十四	ドクトル	●土田卯三郎
本郷區曙町十四	醫學士	●河野 衛
本郷區眞砂町二十八	ドクトル	●西山 信光
横濱市南太田町	醫學士	●渡邊 房吉
本郷區西片町十、ほノ十	醫學士	●石津 利作

○終身會員（いろは順）

本郷區三組町八十六		石崎つる子
麹町區二番町三十一		井上むつ子
本郷區春木町二ノ五十六		伊東まき子
小石川區金富町三十三	男爵夫人	濱尾 作子
小石川區音羽七ノ十		鳩山 春子
京橋區築地三ノ四	男爵夫人	花房千鶴子
小石川區小日向臺町一ノ二十		長谷川仲子
東海道大磯		西 升子
神田區北甲賀町四		西邑せつ子
芝區高輪南町五十九		仁禮壽賀子
牛込區拂方町九		穗積 歌子
本所區松井町三ノ二		本多 幸子
本郷區西片町十、ろノ十六號		岡澤わか子
牛込區早稲田町	伯爵夫人	大隈 綾子
淺草區新森田町二		大谷嘉知子
四谷區鮫ヶ橋南町四		勝間田千代子
小石川區茗荷谷町八十一		笠井梅野子
深川區島田町九		鹿島いと子
牛込區市ヶ谷砂土原町二ノ一		加藤春路子

麹町區上二番町四十四	男爵夫人	加藤鈴子
本郷區駒込妙義坂二百五十三		丹波貞子
小石川區關口町一六二	子爵夫人	田中すま子
麻布區市兵衛町一ノ五		田中とら子
京橋區西紺屋町十	男爵夫人	高木とみ子
麹町區飯田町三ノ二十九		高木くら子
府下荏原郡入新井村千五百五十		玉塚とよ子
牛込區砂土原町一ノ三		鍋倉梅子
麻布區本村町四十七	男爵夫人	南部隈子
神田區猿樂町二		上原豐子
神田區淡路町一ノ四		宇津木しげ子
日本橋區本船町中村屋方		山崎かつ子
本所區相生町四ノ十七		山本喜代子
麹町區上六番町三十三		眞野たか子
本所區綠町二ノ二十四	子爵夫人	牧野美子
府下豐多摩郡大久保村東大久保高嶋		前田朗子
下谷區谷中天王寺町四		藤村美代子
芝公園十一號地ノ八		安達芳子
芝區伊皿子町七十		岸澄子
小石川區竹早町八十一		三宅ふじ子
神田駿河臺袋町十五		三浦敎子
京橋區因幡町七		宮下咲子
小石川區水道町二		三井捨子
麹町區平河町六ノ二十		鹽原千代子
下谷區中根岸四十一		清水とく子
小石川區武島町九		淸水しづ子
日本橋區中洲第五號ノ一		日比谷もと子
牛込區仲ノ町八		森寛子
芝區高輪北町四十八		茂木操子

○特別會員（いろは順）

淺草區猿若町一ノ三十七		岩田晴子
芝區高輪南町	男爵夫人	岩崎早苗子
麹町區紀尾井町三		岩下ゆか子
麹町區永田町二ノ三十三		伊集院しげ子
芝區高輪南町三十八	子爵夫人	伊東ちせ子
麹町區三番町八十四		磯部あや子
芝區田町七ノ六		今村左誇子
四谷區大番町十九		石川さだ子
京橋區築地三ノ八		池田米子
府下荏原郡品川町品川宿	男爵夫人	池田覺子
府下千駄ヶ谷村九〇二		飯島つろ子
麹町區永田町二ノ一		早田純子
赤坂區一ツ木町八十一		羽田三緒子
小石川區指ヶ谷町九		長谷川てう子
京橋區南鍋町一		橋本くら子
下谷區龍泉寺町百四十八		原れい子
麹町區飯田町四ノ三十一		橋本とよ子
神田區駿河臺袋町十三		濱田捨子
京橋區木挽町十ノ十四		林さと子
小石川區林町四十四		濱欽子
日本橋區濱町一ノ一		仁杉うた子
大森	男爵夫人	西靜子
麻布區鳥居坂町十		西澤ゆき子
芝區高輪南町四十四	子爵夫人	細川同子
麻布區廣尾町二		本多梅子
小石川區原町三十四		穗積松子
芝區三田綱町一	伯爵夫人	德川知子
麹町區下二番町四十六		土肥多越子
赤坂區青山南町六ノ三十		德富靜子
麹町區三番町三十六		岡田總子
赤坂區氷川町五十一		太田龍子

日本橋區濱町一ノ十二　岡田三重子
本郷區東片町百十六　緒方惟子
神田區西小川町一ノ八　岡村隆子
四谷區右京町十三　尾崎菊枝子
牛込區山伏町二十　大澤つや子
京橋區弓町十九　大谷作子
芝區城山町八　大岡榮子
麴町區平川町六丁目十四　岡山とし子
日本橋區小網町四ノ五　大森ちやう子
麴町區土手三番町十木澤方　岡野いく子
麴町區飯田町四ノ二　沖野りう子
麴町區飯田町四ノ九　鷲山彌生子
麴町區五番町十四　加藤常子
本郷區丸山福山町二十　川島けい子
京橋區南金六町十三　河浦民子
本郷區西片町十、ろノ二　片山かめ子
麴町區一番町三十　男爵夫人　金子家壽子
神田區北甲賀町　金杉松子
麴町區飯田町六丁目　樫村榮子
麴町區富士見町四ノ四　河本かめ子
麴町區下二番町四十一　吉武輝枝子
麻布區三軒家町遊門教會內　横田秀野子
麴町區上二番町二十五　公爵夫人　鷹司順子
日本橋區元大工町九　高橋瑞子
麴町區內幸町一ノ三　高木銖子
日本橋區本石町二ノ七　田村きよ子
芝區二本榎西町二　高山愛子
麴町區中六番町二十四　高橋ルイセ
日本橋區本町二ノ十二　高橋孝子
下谷區練塀町六十一　田代はる子
府下豊多摩郡大久保百人町南通一　竹中春子

芝區巴町二十九　園田きん子
麴町區飯田町五丁目　曾根しん子
本郷區弓町二ノ二十四　男爵夫人　辻さと子
小石川區茗荷谷町六十七　津輕りき子
赤坂區福吉町一　鵜原誠子
小石川區原町十三　中村銕子
麻布區北日ヶ窪　長與園子
麴町區下二番町七十四　中濱芳子
日本橋區蠣殻町三ノ五　長井とし子
麴町區永田町二ノ一　侯爵夫人　鍋島榮子
牛込區南町三十三　中村晉海子
小石川區宮下町十　中村春子
日本橋區呉服町二十二　中野咲子
深川區佐賀町二ノ二十二　長江しげ子
本郷區千駄木林町十七　中野磊代子
芝區[illegible]手町十五　植村まき子
本郷區金助町十二　男爵夫人　野田すみ子
牛込區市谷仲町五十七　藏田しげ子
赤坂區福吉町一　侯爵夫人　黒田清子
本郷區彌生町二、はノ十七號　隈川京子
京橋區弓町二十四　黒河内朝子
小石川區關口臺町二十一　吳みな子
芝區三田功運町三十九　八十島德子
赤坂區檜町三　山脇ふさ子
牛込區拂方町九　山口てい子
麴町區上二番町三十八　山本多穗子
四谷區元鮫ヶ橋町五十八　伯爵夫人　松平充子
麴町區飯田町六ノ二十　子爵夫人　松井正子
本郷區龍岡町八　子爵夫人　松平八百子
赤坂區表町四ノ四　男爵夫人　松平壽滿子
赤坂區表町四ノ四　松平芳子

麻布區材木町十二　松岡光子
京橋區築地明石町六十一　藤村とめ子
本郷區東片町百二十七　藤井静子
京橋區出雲町一　福原とく子
本郷區弓町二ノ三十四　古市こう子
京橋區遞信省官舍　小松いさ子
赤坂區青山原宿二〇九　木島こゆり子
麻布區市兵衛町二ノ八十九　呉康子
京橋區南金六町十五　遠藤波津子
日本橋區村松町十二　安藤つま子
神田區北甲賀町十四　子爵夫人　秋元宗子
牛込區新小川町十四　秋田治子
麻布區今井町三十六　相磯まさ子
麹町區上六番町二十　足立清子
本郷區弓町二ノ三十四　青山孝子
本郷區西片町十　阿部篤子
神田區南甲賀町十七　朝倉ゆき子
芝區三田松坂町三十四　阿部優子
神田區駿河臺北甲賀町十一　佐々木芳子
日本橋區大傳馬町　佐藤とく子
本郷區湯島新花町九十八　佐藤らく子
芝區下高輪町五十五　齋藤脩子
本郷區西片町はノ十九號　佐藤みさほ子
京橋區木挽町一ノ十一　西園寺留子
小石川區原町百二十六　坂谷こと子
赤坂區新坂町三十　櫻田節彌子
麻布區霞町八　酒匂治子
本郷區弓町一丁目　男爵夫人　菊地たつ子
麹町區四番町五　木内磯路子
牛込區砂土原町一ノ二　菊地みれ子
日本橋區本町一ノ十二　菊地みや子

麹町區富士見町一ノ二十九　三井五十子
神田區雉子町三十一　宮本樂子
麹町區四番町十四　三輪田眞佐子
神田區眞猿樂町一　三輪八三子
神田區駿河臺北甲賀町十七　清水たけ子
麻布區廣尾町三十　白石まむ子
牛込區若宮町四十一　首藤滋子
府下千駄ヶ谷字原宿一七六　下田歌子
芝區榮町十三　伯爵夫人　久松貞子
麹町區飯田町六ノ十九　弘田益子
麹町區内幸町内相官舍　男爵夫人　平田逸子
京橋區南小田原町四丁目一　森岡きみ子
小石川區原町十九　茂木政子
淺草區吉野町二十四　百瀬きよ子
芝區高輪南町　毛利安子
牛込區横寺町五十八　杉山こと子
小石川區春日町四十八　須田しつ子
四谷區須賀町二十四　杉村よし子

○通常會員（いろは順）

いノ部

牛込區早稲田馬場下町三十五　犬養千代子
牛込區東五軒町四十二　伊東琴子
牛込區矢來町四ノ四十六　石川さわ子
麻布區富士見町九　石河里子
麹町區永田町一ノ十七　男爵夫人　伊東やへ子
赤坂區溜池榎坂町四　岩野機世子
牛込區新小川町三ノ三十一　稲垣すゞ子
麻布區宮村町四十二　伯爵夫人　井上武子
牛込區矢來町御殿五十號　今井俊文子

小石川區關口臺町音羽養生院　岩田もと子
芝區巴町二十四　石黒よし子
小石川區指ヶ谷町盲啞學校　石川さの子
赤坂區臺町二　石黒すま子
本郷區天神町一ノ九十四　今田初子
四谷區坂町九十　稲垣かつ子
深川區木場町十五　井澤ろく子
麹町區飯田町一ノ四　一井てい子
下谷區谷中清水町一　犬養かつ子
神田區今川小路三ノ三　出浦のぶ子
牛込區下宮比町十四　嚴﨑琴子
赤坂區青山北町六ノ三十三　石光佐家子
下谷區茅町二ノ二十七　飯泉はん子
牛込區袋町八　飯田幸子
芝區三田四國町二十八　井上美代子
神田區仲猿樂町十七　井本秀子
小石川區西原町二ノ四十　井ノ口たず子
京橋區桶町二十六　石崎ひさ子
四谷區荒木町二十七ぬノ十二　伊藤こう子
日本橋區上槇町二十一　磯部つや子
本郷區西片町十、ろノ八號　祝のぶ子
日本橋區久松町二十九看護婦會　井上なか子
芝區櫻川町二　石丸鎌子
麻布區宮村町九　井倉れい子
本郷區駒込西片町十、いノ十三號　石井ふみ子
牛込區藥王寺前町五十一岸澤氏方　岩船貞子
下谷區仲徒町二ノ六十五　石橋よし子
淺草區小島町四十八　石川すみ子
麹町區平町三十七　磯野きく子
京橋區船松町十五　池谷八重子
日本橋區長谷川町一、片山方　岩佐この子
小石川區巣鴨病院内　石橋はや子
芝公園第二十五號ノ一　岩垂梅子
麻布區山元町三十三　今みつな子
芝公園十一號澤還寺内　伊東かう子
日本橋區通油町二十三　稲村鶴子

はノ部

京橋區弓町朝報社内　服部桂子
本郷區東片町四十八　長谷川ゆか子
赤坂區青山南町六ノ七十六　橋本ちせ子
麹町區下二番町三十一　林竹子
牛込區拂方町十　服部仲子
本郷區曙町三　服部もと子
麹町區飯田町三ノ十五　原みつ子
麻布區市兵衛町二八五　林榮子
日本橋區北鞘町二　林つる子
神田區小川町四十一　林さく子
神田區南甲賀町八　原政子
牛込區北山伏町三十五　橋本滋子
下谷區御徒町一ノ三十五、前田方　早川花子
赤坂區新坂町三ノ四十四　長谷川たよ子
小石川區原町百三十三　萩原ひさ子
淺草區駒形町三十二　橋本いま子
神田區同朋町二十一　早川つれ子
京橋區東湊町一ノ四十四　橋本とよ子
本所區向島須崎町一二九　畠山八重子
淺草區北三筋町一　林はる子
小石川區　橋本せい子

にノ部

麹町區飯田町六ノ十六　西尾京子

牛込區仲町十一　仁尾しげ子
神田區猿樂町二ノ一新野方　西村藤子
麻布區箪笥町六十五　錦織梅子
日本橋區蠣殼町二ノ十四　日本橋高等女學校

ほノ部

赤坂區青山南町七丁目青山學院　本多てい子
日本橋區坂本町十七鈴木敏方　堀田いわ子
日本赤十字社第一號寄宿舍　北條あい子

こノ部

麹町區元園町一ノ六　戸塚てつ子
牛込區若宮町十三　豐島清子
牛込區二十騎町三十森方　後野いわ子
牛込區矢來町十四　東儀ゆき子
麻布區一本松町二十四　富永せき子
牛込區市ヶ谷仲ノ町五十八　土岐梢子

ちノ部

麹町區永田町二ノ七　長郷千代子
麹町區飯田町四ノ十三　地口なかの子

お、をノ部

小石川區原町十　沖きよ子
神田區雉子町二十三　尾崎つや子
本郷區湯島新花町七十四　大澤と代子
牛込區原町三ノ七十五　大木珠子
牛込區大久保余丁町一〇三　大森百合子
麹町區下二番町六十九　奥田たか子
神田區錦町三ノ一　大關ちか子
本郷區東片町百三十一　大澤さく子
下谷區御徒町一ノ四　大森くめ子
京橋區木挽町一ノ十一　岡崎ふさ子
麻布區三軒屋町三十八　小倉すゞ子
麻布區本村町百七十四　岡崎き代子
南豐島郡千駄ヶ谷村　侯爵夫人　大山捨松子
京橋區金六町六　越智馨子
麹町區永田町二ノ十三　大島つい子
芝區神明町二十五田村氏方　奥山とし子
牛込區原町一ノ五十七　小田川みつ子
芝區三田四丁目七　大木次子
牛込區仲町三十三　岡崎いし子
日本橋區濱町二ノ十二南ノ九十六號　大八木幸子
麹町區有樂町三ノ一　岡村まさ子
京橋區南八丁堀一ノ十五　岡本春子
小石川區小石川女子大學成生寮　大岡つたゑ子
四谷區內藤町一　奥村ふみ子
日本橋區本銀町一ノ八玉孫方　小野かね子
神田區多町二ノ十三勝倉鎌太郎方　小野熊子
麻布區笄町一七一　大井上かね子
麹町區紀尾井町三　奥田綾野子
牛込區若宮町二十八　大井上ちかよ子
日本橋區蠣殼町三ノ一　大久保きく子
神田區南甲賀町八　小野寺つれ子
日本橋區南茅場町　大澤うた子
小石川區表町三十四太田方　岡村おき子

わノ部

麹町區中六番町四十八　渡邊よね子
麻布區網代町一、英孝方　桒谷保子
牛込區東五軒町三十五　和田垣つな子
日本橋區濱町三ノ一　若林かね子

赤坂區新坂町二十一　渡邊松子
本郷區西片町十　和田英子
日本區龜島町一ノ十八　渡邊節子
麹町區平河町六ノ二十六　渡邊かづ子
牛込區大久保余丁町百九　渡邊仙子
麹町區飯田町四ノ二十五　和田いれ子

かノ部

麻布區東町二十四　川上やす子
牛込區築土八幡町二十六　男爵夫人　神山まさ子
赤坂區青山稲田三十二　加藤つる子
小石川區江戸川町十七　河津敏子
赤坂區新坂町十七　川原謹子
赤坂區靈南坂町十七　加藤きよ子
麻布區三河臺町二十九　上泉ひさ子
牛込區山伏町二十九　河村玉子
麹町區三番町二十　河原久子
麻布區六本木町三十　川浪時子
牛込區若松町五十九　川地遊龜子
四谷區永保町二　川田あや子
神田區仲猿樂町六　金子しゑ子
府下北豊島郡日暮里村大字金杉二一六　鹿島しん子
神田區鈴木町二、東洋内科醫院内　河野もゝよ子
芝區高輪南町四十七　金原てい子
牛込區新小川町一ノ十七　柿澤たま子
日本橋區川瀬石町十七　加藤ゑん子
赤坂區青山南町二　神取てう子
小石川白山御殿町百二十七　川村くら子
麻布區笄町二十八　鹿島磯子
京橋區南八丁堀一ノ二十九　乾つれ子

よノ部

芝區元高輪六十　吉原よね子
京橋區南鍋町二ノ五　米津たか子
麻布區新龍土町十二　吉原かや子
牛込區西大久保村四百六十　與倉幹子
牛込區市ヶ谷谷町十一　依田豊陽子
麹町區内幸町一ノ三　米井鶴松子
神田區美土代町一ノ十八　山水つれ子
北豊島郡日暮里村字金杉二一二　吉田廉子
麹町區三番町六十七弘光方　横矢ゆき子
牛込區新小川町一ノ五　吉野梅子
麻布區宮村町六十七　芳川新子

たノ部

麹町區永田町二ノ七　高島つる子
本郷區西片町十、へノ十六　田口つる子
神田區北伊賀町八　田村てう子
京橋區木挽町九ノ十五　高橋濟子
神田區今川小路一ノ五　田中こう子
神田區鈴木町十二　高田てる子
京橋區木挽町一ノ十四　高山らく子
牛込區納戸町二十六　高山さき子
小石川區西原町二ノ十五　田中てる子
神田區小川町六十　丹治春子
赤坂區青山南町六ノ八十二　武宮すみ子
赤坂區青山北町三ノ四十八　玉利のぶ子
本郷區西片町十、ろノ二十四號　竹村てい子
本郷區西片町十、にノ三十九　高倉つな子
小石川區關口臺町　高田藤子
麻布區東町二十二　田中とよ子

芝區西久保巴町七十九　玉木とよ子
本郷區湯島天神町一ノ二十四　高橋姿子
牛込區辨天町百四十七　谷森鋭子
牛込區船河原町十三　高木やす子
日本橋區本銀町四ノ九　高木こう子
牛込區市谷仲ノ町三十九比留方　竹上はる子
麹町區永田町二ノ十五平田方　高塚まち子
赤坂區青山南町四ノ三十二　高山正代子
牛込區若宮町三十七　武田かれ子
麹町區有樂町一ノ三中山邸内伊藤政太郎方　高橋のぶ子
淺草區聖天町六十一丹陽方　多田益子
京橋區新船松町九延次郎方　辰澤町子
赤坂區臺町六十一　竹内有樂子
神田區駿河臺袋町產科婦人科病院　玉井ちとせ子
日本橋區佐内町八鈴木久吉方　高橋みつ子
京橋區材木町三ノ十一　高岡春子
京橋區南鍋町一ノ一　田中十世子
麹町區永田町二ノ六十八　田尻くめ子
赤坂區青山南町六ノ十四　多々良とよ子
小石川區表町五十九同志婦人會　但馬和歌野子

り ノ 部

四谷區内藤新宿北裏町八十二　曾田八重子

つ ノ 部

牛込區市谷藥王寺前町十四　土屋西子
本郷區西片町十、いノ十一　坪井なた子
麹町區富士見町五ノ九　佃うめ子
牛込區辨天町四ノ十四　鶴見千代子
日本橋區箱崎町三ノ二　塚原梅子
小石川區久堅町八十　塚本浪子

日本橋區通西丁目七　津村文子
日本橋區佐内町六　鶴岡ひさ子
赤坂區青山南町五ノ四十五　津田ふく子

ね ノ 部

下谷區茅町二ノ二十七　根岸かな子

な ノ 部

京橋區銀座四ノ十二　中村もと子
本郷區駒込千駄木林町二百二　中島たけ子
赤坂區青山南町六ノ四七　内藤うめ子
麻布區本村町百八十五　中島鉄子
牛込區辨天町六十七　南部姿子
京橋區竹川町十三　内藤千代子
牛込區市谷富久町十六島瀬時義様方　中島きよ子
日本橋區新衛門町　瀧川米子
東京巣鴨病院内　永松あい子
小石川區小日向水道町三丁目　南部きし子
神田區元岩井町二十八　長本つた子
芝區西久保神谷町十八　中山貞子
京橋區弓町朝報社内　永安はつ子
麹町區飯田町二丁目　中原敬子
芝區愛宕町二ノ十四　中山つね子
本郷區弓町二ノ三十　中江あし子
芝區烏森町五　中澤春子
淺草區黒船町二十四　中島照子

む ノ 部

日本橋區元大坂町十一　村山すゑ子
小石川竹本町三十七　村山ふく子
牛込區市ヶ谷仲ノ町　村木きくゑ子

神田區南甲賀町九　室賀歌子
芝公園八號ノ四常照院内　村田てつ子
本郷區本郷四ノ一　村橋ます子
日本橋區龜島町一ノ二　棟方百世子

うノ部

日本橋區小船町一　宇津木すえ子
麻布區三軒家町四十一　上村きよ子
京橋區采女町三十六　浦島てい子
日本橋區通四丁目　牛山竹代子
神田區東紅梅町十三　内田すま子
麹町區三番町　子爵夫人　裏松千代子
京橋區銀座三丁目十九　植木ゆき子
牛込區鷹正町六　馬屋原ひさ子
牛込區若松町百三十七　梅津禮子
京橋區本材木町三ノ九　内田なか子
赤坂區青山南町五ノ四十五　内村よし子
赤坂區裏町二ノ七　梅本貞子
府下大久保百人町七九　淡原せい子

のノ部

芝區紅葉館内　野邊地たき子
四谷區信濃町八　野崎わか子
麹町區三番町三三榊病院　野見山たき子

くノ部

小石川區金富町三十五　久保田八重子
麹町區飯田町三ノ四　熊澤しま子
麻布區笄町七十九　日下部政子
府下駒場農科大學官舍　久保谷子
牛込區簞笥町四十三　久保田ぶん子
牛込區東五軒町十一　久保田節子
赤坂區溜町六十三　楠田ひで子
麹町區上二番町三十六吳氏邸内　黑澤松枝子

やノ部

芝區榮町八　山田そよ子
牛込區市ヶ谷宮久町百二十六　男爵夫人　安保よれ子
四谷區本村町三十七　山上よし子
芝區本芝三丁目十五　山岡せい子
赤坂區靈南坂町二十　山際はる子
芝區田町四ノ六　山田くめ子
芝區三田四國町十五　山口せき子
麹町區上二番町三十三　矢島かち子
京橋區南小田原町二ノ九　山室さの子
京橋區築地二ノ五藤田方　山本たま子
牛込區宮久町百二十六　安保操子
芝區白金三光町四六二　矢野ふみ子
牛込區拂方町十一　山田拾子
赤坂區丹後町一、二十五號　山崎省雄子
赤坂區新町三ノ十八　山崎しん子
赤坂區青山北町六ノ三十七　安村忠子
芝區櫻川町二、室方　山田もと子
赤坂區青山南町一ノ三十三　安田定子
小石川區江戸川町一　山本とめ子
芝區高輪南町四十七　山本きぬ子

まノ部

芝區三田三ノ十四　松山信子
下谷區櫻木町三十一、丸茂病院内　丸茂むれ子
芝區櫻川町十　牧かれ子
赤坂區青山南町六ノ三十一　増野寧子

芝區三田一ノ二十八　伯爵夫人　松方政子
神田區北神保町十八　馬島闓子
麻布區三軒家町二十　松崎すゞ子
本鄉區西片町十　又木きく子
小石川區久堅町七十一　牧野英子
日本橋區新材木町十四、松下岩雄方　松下つれ子
牛込區市谷仲町五十二　松浦つる子
麴町區富士見町一ノ三十　眞崎まつ子
神田區錦町一ノ十四　松本文子
牛込區市谷砂土原町二ノ一　松野滋子
牛込區拂方町三　前田りつ子
京橋區木挽町九ノ八　前島おか子
深川區中島町五　增田乙二子
本鄉區二丁目九　前島てい子
芝區金杉新濱町一　增田濱江子
赤坂區青山南町六ノ一〇一　松下貞子
本鄉區龍岡町八　松平八百子
麻布區竹谷町二　町田まつ子
牛込區原町二ノ七一　馬屋原つろ子
京橋區南新堀町一ノ六　牧原なな子
下谷區入谷町一四三、田中方　松尾つね子

ふノ部

麴町區飯田町一ノ八　船曳みき子
芝區小山町五　藤田閒子
麻布區東町二十四　藤岡千勢子
府下淀橋町大字角筈新町一八五　福羽てい子
本所區柳原町三ノ十五　藤井すゞ子
本鄉區森川町一　藤井もと子
麻布區笄町百二十九　福永淺子
四谷區簞笥町三十七　古田友子
麴町區一番町三十九　福島多喜子
赤坂區青山南町六ノ十二　藤野薫枝子
赤坂區臺町七　福地衣子
麴町區永田町二ノ一鍋島邸內　古川喜代子
小石川區丸山町十九　古谷楊子
小石川區諏訪町三十六　藤澤すま子
深川區溢歩町三　府川ちよの子
神田區豐島町二十一　藤井千代子
赤坂區青山北町一ノ八　藤田とよ子

こノ部

小石川區表町一〇九　小峯千年代子
神田區橋本町三ノ三　後藤はつ子
本鄉區西片町十、はノ二十四號　近藤幸子
麻布區市兵衛町二ノ八十三　兒島まさ子
府下澁谷村赤十字病院　兒山すみ子
本鄉區湯島五ノ十、順天堂病院　後藤米子
日本橋區久松町二十九　近藤いく子
麴町區五丁目二十一　小宮せん子
本鄉區彌生町二　後藤わか子
本鄉區駒込動坂町二一八　小林靜子

えノ部

牛込區赤坂下町五十三　江口春子
麻布區霞町二十二　江頭米子

てノ部

小石川區豐川町二十四　寺田恒子

あノ部

牛込區納戸町三十一　青戸咲子

京橋區南八丁堀一ノ二十八	綾井きん子
牛込區天神町七十一	青木すみ子
牛込區市谷加賀町二ノ二十	安藤さゝ子
麻布區東鳥居坂町十	麻生宮久子
淺草區下平右衛門町二十一	相坂嘉美子
京橋區南新堀町十一	天田鶴子
麴町區下六番町四十八	淺田みね子
日本橋區材木町二ノ五	淺野てふ子
神田區錦町三ノ二大關方	朝倉ふみ子
下谷區西町一、山下方	秋谷よし子
麻布區市兵衛町一ノ一	秋山梅子
麻布區笄町九十四	淺田みか子
四谷區荒木町二十四	新井うめ子
本鄉區春木町三ノ二十八	吾妻光子
麻布區笄町百〇九	安森浦子
神田區南甲賀町八原氏方	新井すみ子
麴町區三番町四十	阿久澤清子
本所區綠町一ノ二十九	天野よし子

さノ部

芝區三田四國町二、十二號	澤邊れん子
麴町區三番町三十二	榊實子
麻布區鳥居坂町九	眞吉れん子
神田區錦町	佐々木かく子
本鄉區駒込二百三十二	佐藤靜子
小石川區白山御殿町百九	齋藤竹子
麻布區市兵衛町二ノ八十八	四郷信子
京橋區木挽町十ノ六	坂本千代子
四谷區左門町五	佐伯みつ子
麴町區土手三番町三十三	佐伯すみ子
日本橋區小傳馬町一ノ二	酒井はま子
神田區表神保町十、ゟノ二十三	齋藤ます子
本鄉區根津宮永町三十五、齋藤政一方	櫻井みち子
麴町區内幸町一ノ五	坂本操子
豐多摩郡千駄ヶ谷字新田八三四	佐野貴見子
赤坂區氷川町五十二	酒井邦子
下谷區二長町五十二	笹生たに子
麻布區狸穴町四十	佐藤澄子
神田區新銀町十九、佐野方	齋藤せい子
芝區高輪南町三十	崎川つる子
芝區高輪南町四十六	崎川千代子

きノ部

麴町區上二番町四十	指宿康子
赤坂區檜町六	清岡かく子
芝區[illegible]手町十七	木村ふみ子
府下駒場農科大學官舍	喜多山つせ子
神田區駿河臺鈴木町二、石上方	北原嘉子
麻布區櫻田町九十	木部まつ子
小石川區下宮坂町十八、村井方	清家廉子

みノ部

神田區須田町二十二	三好こう子
府下千駄ヶ谷村七百六十二	三島わか子
小石川區竹早町八十二	三浦とめ子
小石川區林町四十一	宮崎よし子
神田區駿河臺鈴木町二十四	三浦とき子
麴町區内幸町一ノ三	三島千代子
芝區明舟町十二	宮崎鶴子
小石川區小日向臺町三ノ九十七	溝淵駒衛子
神田區猿樂町十二	水原はる子
小石川區下富坂町十三	宮崎かれ子

日本橋區久松町二十九　宮田ちか子
赤坂區青山南町五ノ四十五、にノ十二號　濱上幸子
麻布區芝森元町一ノ二十七　水原きん子

しノ部

牛込區南町一　島崎たけ子
深川區安宅町七　島田やえ子
小石川區原町一ノ一五　島田濱子
牛込區砂土原町三ノ十六　隠田てる子
麴町區一番町二十九　白井きん子
芝區三田通新町十三　下村ちと子
芝區巴町三十四　篠原さだ子
府下澁谷村下澁谷居村三八九　清水とし子
京橋區南八丁堀一ノ十五　白神しげ子
赤坂區青山北町五ノ四十八　柴田鶴子
小石川區白山御殿町百十　下瀬勝千代子
麴町區三番町八十　守隨き代子
下谷區西黒門町十一、金門商會　十文字こと子
本郷區駒込東片町四十二　下田鴻子
赤坂區一ツ木町五十九　志村むれ子
芝區櫻川町二、実氏方　宍戸たき子
四谷區東信濃町十　宍戸幸子
牛込區西五軒町十八　柴田れん子

ひノ部

麴町區下二番町六十九　日高りき子
麴町區三番町六十　廣瀬りき子
牛込區加賀町二ノ二　廣井つな子
赤坂區青山南町六ノ五十一　菱田糸子
麻布區我町一　廣澤てつ子
本郷區眞砂町三十四　平野増子

京橋區南大工町一　平山節子
牛込區市谷仲ノ町五十六　久山千代子
四谷區元鮫ヶ橋南町八十八　樋口千代子

もノ部

牛込區上宮比町五　森安かた子
麻布區三軒屋町二十九　森園子
本所區緑町一ノ四十四、關口方　本島鐘子
京橋區南金六町十五　森永とく子
赤坂區青山北町七ノ一　森君子
牛込區早稲田鶴巻町四百三十一　森山波子

せノ部

麴町區上六番町三十　瀬川さわ子
牛込區南榎町十五　關計紙子
豊多摩郡千駄谷村三八四　仙波佐喜子

すノ部

府下淀橋柏木三四三　菅野すか子
神田區北神保町八　鈴木みち子
麻布區市兵衛町二ノ十三　菅豊子
芝區三田綱町一　杉いそ子
本郷區駒込病院内　杉本りせ子
本郷區湯島三組町八十二　杉本嘉納子
麻布區材木町六十三　鈴木てる子
府下亀戸町三九〇一　鈴木きよ子
神田區今川小路三ノ八　須藤鳳子
麻布區芝森元町一ノ十　鈴木つる子
麴町區永田町二ノ三十　杉山歌子
京橋區明石町三十一　鈴木豊子
本郷區千駄木町一　鈴木鈴子

下谷區北六門町十六　鈴木うめ子

○東京帝國大學附屬醫院

本鄕第一醫院　佐藤さだ子
看護婦長　代　とめ子　外科看護長　村井ちか子
山田やゑ子　赤堀龍江子
第二醫院內科看護長　高野京子
第一醫院三浦內科新室　西戸いま子
第一醫院　井上つや子

地方會員ノ部

本會贊成員

清國大連近口町A區一町　田中德三郎
栃木縣河內郡姿川村大字瀧谷五　坪山平馬
福井縣武生郡蓬萊病院　窪田宗太郎
岡山縣御野郡大野村大字大安寺千百七十六　山川啓二
京都市烏丸通上長者町角　ドクトル　佐伯理一郎
新潟縣佐渡夷町　醫學士　竹中成憲
廣島市字中島本町九十一　小泉賀
兵庫縣湊町三ノ十三產科婦人科院　大島喜馬太
岩手縣盛岡病院長　醫學士　川上雅盈
靜岡縣濱松田町六十七　鈴木市太郎
甲府市山梨縣立病院　醫學士　淺田決
秋田縣鹿角郡毛馬內町　小笠原秀治
青森縣西津郡鰺ヶ澤町字七ツ石町四番戶　藤田眞策
千葉縣君津郡小櫃村俵田長谷川　根本峯吉
越後國南蒲原郡加茂町　關善三部
新潟縣東頸城郡浦田村大字浦田十八　本山捨五郎
新潟縣南蒲原郡見附町見附病院　岡田九十九
山形縣北村山郡宮澤村大字正厳　阿部藏
埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　本多千八郎

臺灣臺南衛戍病院　横井忠圖
青森縣三戶郡八戶朔日町　福市眞一
上野國前橋市第九號舍　小高左一郎
臺南市西本願寺布敎所　能美顯正
福島縣信夫郡瀨上町　鈴木一衛

○終身會員

神奈川縣中郡大磯臺町　川村春子
山形縣西村山郡新宿村　今井政の子
山形縣東置賜郡屋代村大字竹森六百二　長谷川伊勢子
大阪三軒屋町紡績會社　山邊さだ子
愛知縣春日井郡中小田井村　松澤たつ子
神奈川縣大綱山　高島くら子
大和國生駒郡法隆寺村百六十三　北島三枝子
福島縣福島町　油井なか子
仙臺市本荒町四　椿高子
埼玉縣北葛飾郡櫻田村字八甫　渡邊麗子
埼玉縣北葛飾郡幸島村大字下片田十九　山中てる子
橫濱市南太田町　伏原濱子
高知縣香美郡赤岡横町　小松雪子
北海道渡島國福山町大字神明町廿一　松前藤子
兵庫縣武庫郡御影町內ノ郡家一三六字寺前　中村久眞子
清國廈門　直哉夫人　愛久澤備子

○特別會員

臺南市竹園街臺南興長官舍　津田貞子
北海道函館青柳町十六　藤野くら子
愛知縣渥美郡豐橋町指笠町卅五　飯田たづ子
府下日暮里元金杉百九十二　片岡敏子
新潟縣中頸城郡高田高等女學校　篠井靜子
岩手縣盛岡病院內　川上きん子

府下豊多摩郡落合村大字落合　近衛公爵母堂　近衛しと子
府下豊多摩郡中澁谷七五　富岡ふみ子
横濱市元濱町一ノ一　渡邊たま子
栃木縣下都賀郡皆川村　幸島菊千
千葉縣東葛飾郡市川町字市川新田四　本間よし子
荏原郡入新井村字不入斗四十二　川口直子
兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾　辰馬清子
神奈川縣鶴見仲ノ町五五七　小川季子
福岡市外東公園内　久保よりえ子
神奈川縣子安村字子安　守屋千代子
滿洲大連伊賀町　久保田不二子
臺灣番審務總甲仙埔採脳會社々宅　渡邊はる子
福岡縣福岡市船津町三十四ノ二　榊梅子
大阪市北區網島町　藤田富子
府下荏原郡大崎村上大崎三百二十一　渡邊妙子
大阪市北區天滿橋通三丁目十番邸　石田裕子
徳島縣板野郡撫養町　加藤雛子
臺灣臺南市西竹園街司令官々邸　指澤竹子

○通常會員

い之部

信州諏訪郡岡谷一分林製糸場内　井川ひろえ子
豊後國大分町百十四　犬塚ゑみ子
鳥取市奇町一ノ七五　伊藤敏子
伊豫國別子銅山住友病院　岩村玉子
長崎市出來大工町十六　飯田和香子
相模大磯別莊　公爵夫人　伊藤梅子
奈良市東寺林町十八　磯田梅代子
鳥取市西米谷町六三　伊垣かう子
廣島市吉島官舍　五十嵐安子
府下北品川字一本木四一八　伊澤ひさ子
愛媛縣松山市柳井町六十三　伊藤ちよう子
埼玉縣浦和町六十五　飯尾たつ子
長野市不當町七十六　石川喜美子
北海道天鹽國増毛町大字阿分村阿分病院　池田かつ子
信州諏訪郡立高島病院豊田分院内　井上しげ子
府下荏原郡目黒村下目黒坂下一五六　岩永さと子
臺灣總督府陸軍經理部衛戍病院　岩淵なほ子

は之部

松山市大字三番町　早水まさ子
山形市旅籠町四八四　服部さき子
廣島市尾道町四田病院　林久滿子
丹後國新舞鶴餘部官舍一〇四號　波多野葉津子
熊本縣熊本市河原町二十五　橋本多久子
府下荏原郡目黒ビール會社構内　橋本眞津子
淸國北京公使館内　服部繁子
岩代國信夫郡飯坂町字橋町十九　牛田よし子
京都府下紀伊郡伏見町字彌安　伴よし子
大阪市北區東野田町四二六櫻ノ宮　橋本貞尾子
兵庫縣津名郡郡家村四百二十七　春海喜佐子
神戸市中山手通五ノ二十一　埴原てい子
臺灣嘉義廳警務課官舍　原口まつ子
大連南滿洲鐵道會社々宅　服部鎮子
臺南市郵便電信局第一號官舍　速水ゑい子

に之部

北豊島郡巣鴨村字上駒込一四六　庭井靜子
横濱市神奈川青木元町高木山　丹羽貢子
埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町新石町一丁目　仁科たか子

廣島縣安藝郡府中村　二宮政野子
清國漢口大冶鐵山　西澤好子
山形縣酒田本町四丁目　西田なか代子

ほノ部

府下南品川四丁目四〇五　本多つさ子
韓國京城南署笠井內四十二統十二戸　朴箍子
北海道札幌町北三、東一、二　本間せい子
京都市土手町通竹屋町　細木とみ子
北海道小樽區稻穗町二十三　本間れん子
吳市愛宕町八七　細川菅子

へノ部

臺灣恒春廳警務課官舍　別府らゝ子

とノ部

北海道石狩國空知郡幌內炭山社宅　戸川祝子
京城西大門鐵道官舍五六　富田たま子
南多摩郡八王子町本町四十六　富澤れん子
神戸市楠町四ノ四十　飛石桑子
東京府下小笠原島母島沖村　篤志看護婦人會
臺灣斗六廳下臺南衛戍病院斗六分院長官舍　土肥原喜保子

ちノ部

鳥取市中町四十九　千葉あや子
臺灣臺南衛戍病院鳳山分院　近岡千代の子

た、をノ部

府下入新井町字山王二六八三　岡富子
長野縣下伊那郡飯田町　小澤愼子
大阪市西區江ノ子島官舍　大村やす子

廣島市竹屋村四百五十四　奥平一子
府下豐多摩郡千駄谷村八九〇　大道隆子
府下北品川御殿町七三三　小川切桂子
伊豆國三宅島神着村二十五　小野すゞ子
南多摩郡八王寺町八日一　大谷うた子
佐賀縣西松浦郡伊萬里今町　沖田あい子
佐世保市永尾第一號　大館きみ子
府下八王寺町八日六十六　大野みち子
上野國碓氷郡里見村大字上里見村二十八　岡田せい子
新潟縣北蒲原郡松浦村大字荒川　大沼志計子
十勝國帶廣町字西二條通四丁目　大井上よねを子
福岡縣福岡市須崎裏町　大森ふみ子
千葉縣東葛飾郡野田町大字上花輪七百七　大塚さく子
北海道札幌區大通西六ノ十　大澤すゑ子
臺南郵便局官舍　岡本うた子
大阪市東區本町一丁目四十番邸產婆　大澤ゆき子
大分縣直入郡竹田町　大河原ため子
岐阜市神田町七丁目　小山田かち子
府下西大久保村字北裏九五　太田もと子
松山市三番町　小笠原なつ子
臺灣恒春廳官舍　小山榮枝子

わノ部

福岡縣久留米市外梅滿　渡邊正能子
神戸市山本通五ノ七十九　和久山きそ子
磐城國石城郡手町方小路二十九　渡邊千賀子
岩代國河沼郡野澤村　渡邊同子
北海道函館會所町八　渡邊夏子

かノ部

秋田縣小坂鑛山醫院分院內　河野りつ子

山梨縣東八代郡石和仲町二百九　鹿兒島きく子
千葉縣安房郡平群村平久里中一三五六、和田方　川名茂登子
神戸市葺合町字熊内二〇八九　野田久米子
府下荏原郡大崎村大字上大崎今里八百五　河井里代子
沖繩縣那覇久米官舍　河村孝子
南多摩郡八王寺町十七　神尾きい子
千葉縣長生郡茂原町早野新田　加藤彌壽子
韓國仁川港日本領事館　加藤直枝子
兵庫縣多紀郡岡野村ノ内西岡屋村二十二　梶原もと子
愛媛縣越智郡四坂島　梶浦信子
富山縣氷見町大字御堂町二九　上庄とみ子
廣島市上流川町廣島女學校内　上甲浜代子
宮城縣登米郡石越村金虎之丞方　金たま子
神奈川縣見上宿五一五　神谷みか子
栃木縣芳賀郡茂木町二百　片岡ちか子
長野縣東筑摩郡松本町土井尻八七六　唐澤好子
廣島縣吳市和庄町字八幡通二七七次四番　風間明子
熊本市新屋敷五二　金竹まさ子

よノ部

秋田縣北秋田郡大館町　横山壽子
長野縣東筑摩郡島立村大庭百八十五　横内いわ子
隱岐國西郷町第二號官舍　吉富霜子
福岡縣鞍手郡直方町　横倉熙子
山口縣吉敷郡吉敷村　吉田すま子
府下荏原郡大島町字谷山二四九　米倉芳子
河内國富田林町東林町十九　米原とき子
筑前國若松町大字修多羅山手通二丁目住友社宅　吉田香小枝子
岡山縣兒島郡鴻村大字上村二二八三　横山豐子
大連市濱町十三ノ一　吉野仲子
滋賀縣甲賀郡水口村山村清太郎方　四方しげ子

廣島縣比婆郡東城町字備中町　橫木民子
長野縣東筑摩郡島立村字堀番　吉澤とみ代子
秋田縣鹿角郡大湯村　吉田とく子

たノ部

大阪市東區岡山町三六一　田中かま子
神奈川縣小田原十字町四ノ八八七　佐つれ子
岩手縣盛岡高等農林學校　玉利わか子
大阪市外海老江村七九　瀧川みち子
臺北艋舺八甲街一四〇　田原その子
愛知縣丹羽郡高雄村百五十七　高木英子
志摩國志摩郡波切村藤兵衛方　高橋いとの子
岩手縣稗貫郡花巻川口町五五三　高橋只志子
丹波國天田郡福知山曾我井村天田　田中直子
臺南郵便局官舍　大府てつ子
廣島縣吳市八幡道三三四、三上兵吉方　谷口駒子
大阪市東區伏見町二ノ一　谷政子
大阪市東區伏見町二ノ四十九　谷眞子
福岡市下土居町二十六　武内つれ子
府下南多摩郡八王子町大横三　田野倉こと子
山形縣北村山郡大高根村　高木智江子
埼玉縣浦和町四百三十五　田中こう子
高知市中島町二百九十　武田と喜子
伊豫國松山市港町四ノ三十六　高田直子
青森三戸郡三戸町　田島つや子
尾道市久保町シンキ阪　團藤ちゑ子

そノ部

秋田縣南秋田郡潟西村宮澤村縦川氏方　曾根きみ子
和歌山縣師範學校女子部　曾野菊江子
愛媛縣別子山村字中七番五五五　染矢ひで子

つノ部

久留米市櫛原町三四　土屋しと子
相州小田原十字町四丁目竹添方　堤　藤子
京都市上京區東入三本丸太町上ル　北屋　春子
臺南憲兵分隊長官舍　角田つれ子

ねノ部

長野縣上水内郡三水村　禰津せい子

なノ部

愛知縣豐橋市松山町松操裁縫女學校内　中野きの子
臺南市安海街内二七〇南部治療院　南部　好子
臺灣臺北西門街二丁目臺灣銀行内　長尾せい子
大阪市南區天王寺悲田院町三八四七　中橋ゑつ子
相州横須賀軍港豐島町中里一四二　中溝　辰子
南豐島郡澁谷村元中澁谷四十　長森ひで子
青森縣三戶郡八戶町八幡町　南部とも子
鎌倉長谷吉田別宅　中濱千代子
埼玉縣大里郡吉見村　長島ひさ子
清國上海兆豐路二十八　長門久壽子
北海道札幌區北一條東七丁目　内藤よし子
甲府市錦町四十　内藤喜千彌子
京都市富小路夷川上　中江あし子
秋田縣雄勝郡貝澤村　中川　房子
山口縣佐波郡三田尻毛利家邸内　長非　貞子
臺南廳官舍　中山ゑい子
秋田縣鹿角郡毛馬内町　中津山きよ子
長野縣長野市大門町五　中島　妙子
神戸市山本通四ノ百三十二　檜崎　竹子
長野縣長野市狐池四十九　習田　文子
府下南品川百五十四　南條　榮子
兵庫縣揖保郡龍野町ノ内日山村　中原百合子
和歌山縣西牟婁郡田邊町字榮町南新町　那須よし枝子
岐阜縣岐阜市上竹町松野六太郎氏方　長尾　愛子
大和國添上郡帶解村大字池田第一番邸　内藤多美子
埼玉縣北足立郡安行村字吉蔵新田　中山せい子

むノ部

對馬國竹敷要港部官舍　向山都子
新潟縣刈羽郡岡野町　村山珠雄子
北海道札幌郡苗穗村九　撫養きさ子
北海道旭川三條通十三ノ左三　室伏　清子
相州平塚停車場前　村非たか子
大分縣大分町千下市　村上亞見子

うノ部

兵庫縣由良町九二三ノ一　内山　訓子
相州三浦郡逗子九百七十一　内田　芳子
山口縣豐浦郡長府村江下　植村　妙子
和歌山市久保町四丁目水野國次郎氏方　上野　延子
松山市一番町私立勝山高等女學校　上野　君子
越後國中魚沼郡鷹ヶ崎村大字谷内　内山　蕃子
青森縣三戶郡八戶町字八幡町　植村みわ子
伊豫國松山市二番丁い五號　宇都宮五十鈴子
臺南監獄長官舍　上田ひな子

のノ部

岡山縣兒島郡味野村千六百七十二　野崎　階子
高知市鷹匠町二　野並三穂子
府下南足立郡北千住町櫻組社宅二號　野口　孝子
大阪市南區天王寺上ノ宮町五三四八　野口　眞子

北海道函館區亀田監獄二十號官舍　野田ひで子
長野縣更級郡稲里村一三二　野邊かい子

くノ部

神戸市山本通四ノ百一　桑原春子
埼玉縣浦和裁判所官舍　黒田哲子
長野縣下高井郡中野町字横町　黒岩ぬい子
北海道札幌區北七西一六　國澤蝶子
北海道札幌區北六西一四　久保衣子
山口縣山口町糸米小路一九七　黒部きよ子
高知市中島町二七　黒岩晃志子
山梨縣北都留郡広濱村二六九　黒部はな子
秋田縣鹿角郡大湯村　汲川れつ子
府下豊多摩郡戸塚村字源兵衛向原　栗田さだ子
臺南市草花街　畔上ひさ子

やノ部

千葉縣君津郡木更津北町一三四一　山田千代子
米國クリブランド市デトロクト街二五六五　山口雪子
山口縣豊浦郡岡枝村字茶屋川永宮茂助方　安岡常子
大阪市北區中ノ島玉江町一ノ十二　安永菊子
韓國京城本町九ノ二十ノ二　安田窓子
臺灣臺北南門外龍運口庄民政官舍　山田よれ子
大阪市東區北濱四ノ九〇　矢能以満子
越前國敦賀港宮貫　矢島よれ子
埼玉縣入間郡坂戸町十七　柳澤りう子
長崎市三菱造船所八軒屋社宅　山田小里子
静岡縣田方郡中大見村　山下百合子
愛媛縣越知郡今治町米屋山二丁目　矢野徳代子
北海道札幌區南七、西一、十四　柳橋とや子
豊橋市松山町五二　山梨識子

府下大森八景坂上　山口靜子
横濱市山手町百二十　山下春江子
静岡市西草深町二百六十四　矢口喜久代子
鳥取縣西伯郡米子町大字灘町二丁目　安田宮美子
長野縣上田町海野町一丁目　山浦友子

まノ部

山口縣長府侍町　松田すゑ子
長崎市引地町十八　毎熊かめ子
神戸市下山手通六ノ百六十三　前川てる子
北海道札幌區北二東三、十　町村せん子
陸奥國下北郡田名部町　丸山よし子
仙臺市東四番丁十八　松尾多喜子
茨城縣猿島郡古河町石町　丸山よし子
三重縣三重郡羽津村羽津病院内　牧村清子
府下南多摩郡八王子町本町五十七　松波すゑ子
清國天津日本租界宮島街　眞水定子
岐阜縣安八郡結村大字東結　馬淵秀子
大阪市北區此花町二ノ二百五十　松本かつ子
静岡縣富士郡加島村平垣　松永くに子
臺南市天地底街陸軍經理部官舍　松村千枝子
相州鎌倉長谷二九三　松波好子
名古屋市中區下前津二六二　横　なみ子

ふノ部

廣島市平塚町一二九　深井てる子
北海道函館船見町五十八　深瀬たか子
新潟縣新潟市上大川前通十番町六　藤田りた子
兵庫縣武庫郡西ノ宮香櫨園停車場北　深澤ふく子
荏原郡南品川淺間臺一四〇七　福島鶴子
名古屋市熱田町東町　深田幸子

山口縣厚狹郡宇部新川町　福島とよ子
秋田縣本花町安田銀行內　古澤みれ子
亞米利加桑港フエデラル街四九　藤田さだ子
清國上海文路四十號　深野英子
廣島縣吳軍港和庄町字清水上通一五三　藤本竹土子
秋田縣雄勝郡三輪村赤袴　藤野しげ子

こノ部

神奈川縣中郡秦野町二七三七　小清水清子
京都府下伏見稻荷町　郡山やへ子
靜岡縣榛原郡勝間田村靜谷　駒塚元子
兵庫縣加東郡市場村　近藤こま子
甲府市富士川町七　權太きん子
橫濱市南太田町二〇八五　駒木根ふじ子
山口縣豐浦郡西市村西市病院　小林市子
高知市帶屋町　高知病院
靜岡縣田方郡伊東町玖須美百二十二　小穴はまよ子

ゑ、えノ部

北海道室蘭港海岸町一　蛯子那珂子
臺灣臺南測候所長官舍　遠藤隆子

てノ部

清國北京日本小學校內　勅使河原君惠子

あノ部

北海道札幌區北三、東四　阿部恒子
朝鮮釜山西町二丁目一福亭前　淺海琴子
廣島縣吳市東本通一ノ二十八　天野知惠子
兵庫縣丹波國氷上郡國領村　足立まつ乃子

さノ部

北海道札幌區北三、東三、五　篠森さく子
埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町二十八　堺まつ子
吳市和庄通三ノ八九　櫻井かほる子
長野縣上田町常田町　佐藤たま子
樺太豐原樺太廳醫院官舍　齋藤喜代子
甲府市百石町六十九　匂坂きく子
久留米市篠山町三六四　相良濱子
奈良市角振町四十一　澤とよ子
臺南市西竹圍街大隊長官舍　坂千枝子
佐賀縣東松浦郡濱村字相賀　寒水たみ子
秋田縣小坂鑛山醫院內　佐々木きれ子

きノ部

佐世保市石渡町三一　衣川雅樂子
和歌山縣海草郡內海村大字鳥居　木村八百代子
大阪市南區天王寺師範學校前　岸松子
新潟縣中蒲原郡龜田町大字城所皆川德四郎方　清洲富子

ゆノ部

相州鎌倉小町四二七　湯地照子
宮城縣伊具郡角田町　湯村きく子

みノ部

大阪市北區天滿橋筋一丁目　水口ちえ子
群馬縣山田郡桐生町四丁目幸町關根千代方　箕輪なつ子
筑前國嘉穗郡笠村鯰田炭坑社宅　三浦こま子
橫濱市北方町五百五十五　箕輪不二子
相州藤澤大坂町　三留織江子
府下淀橋町柏木字成子一一二三　三木梅子

北海道札幌郡篠路村四　三宅きよ子
埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町　三田もと子
臺灣臺北府後街民政部官舍より　宮本定子
府下南多摩郡八王寺町大横七十二　宮崎あさ子
新潟縣刈羽郡柏崎下新田町宮川久平内　宮川芳子
岩手縣盛岡市内丸三十四　三田さめ子
愛媛縣温泉郡雄群村字藤原油紙製造所内　宮脇ちよう子
北海道札幌區北一條西六丁目一　宮島梅子
韓國元山津旭町一丁目　宮原いく子

しノ部

府下荏原郡北品川字一本木三六一　進みち子
栃木縣下都賀郡栃木町　白澤彌與司子
相模國小田原十字町三ノ五五四　清水すみえ子
鹿兒島市春日町三十二　島津治子
岐阜縣山縣郡保戸島村側島　篠田しづえ子
神奈川縣三浦郡葉山村堀ノ内　白石艶子
肥前國東彼杵郡西大村五百三十五　遠江伊勢子
福井縣敦賀町松榮　繁田よし子
青森縣上北郡野地町山田醫院　清水忠子
日向國西臼杵郡三田井町　神殿と那子
静岡縣富士郡袖野村　篠原美代子
北海道後志國瀬棚郡瀬棚村會津町　進藤やすゝ子
臺南市老口街守備隊將校官舍　志賀きち子
北海道千島國紗那郡留別村　島崎ひさ子

ひノ部

横濱市戸部二丁目塵藥業壽様方　菱田ゑい子
京都下鴨村四十四　久原あき子
静岡縣女子師範學校内　平林たみ子
長野縣千歳町乙三十三内二番　平塚いし子
布哇國マウイ島ブウチチ樋口貫方　樋口つや子
韓國馬山浦舊馬山　弘生二井子
豊多摩郡西大久保村四一五　久能喜代子
長野縣立高等女學校内　平山誠子
大分縣立大分高等女學校内　廣瀬敏子
大分縣速見郡日出町字三ノ丸　久持みれ子
相州鎌倉御用邸側　平田久子
廣島市上流川廣島高等女學校　菱沼小夏子

もノ部

府下八王寺町大横町二十四　杢代こま子
松山市三番町道山内　森きみよ子

せノ部

京都市上京區油小路椹木町上ル　仙田花子
山口縣豊浦郡岡枝村荒小田町山田醫院内　關野秀子
神奈川縣鎌倉字長谷四二一　迫水吉子

すノ部

山形縣酒田町上臺町鈴木商店内　鈴木よし子
清國奉天正金銀行支店　杉原昌子
長崎縣西彼杵郡高島炭坑　杉本千世子
秋田縣鹿角郡大湯村　諏訪なみ子
佐賀縣佐賀市水ノ口町杉小路渡邊流裁縫教授所　菅野雪子
京都市寺町通廣小路下ル　末廣小金子
臺灣打狗轉地療養所内官舍　鈴木貫子
神奈川縣見上宿五一五　鈴木石子

○新潟支會會員姓名

○講師

醫學士 池原康造　醫學士 長谷川寛治
同 若杉喜三郎　長井千尋
醫學士 工藤秀一郎　黒岩福三郎
醫學博士 澤田敬義　醫學士 前田得三

○顧問

高橋辰五郎　長谷川一詮

○役員

會長 竹山れつ子　副會長 關やす子
幹事 中村しげ子　幹事 古閑はつせ子
同 清水くり子　同 高橋ただ子
同 和田くに子　評議員 小柴きく子
評議員 若杉きく子　同 鍵富かう子
同 吉村きよ子　同 荒川てい子
同 坂本いち子　同 澤田いつ子
同 松野なほ子　同 八木ゑい子
同 鍵富しん子　同 高橋なみ子
同 鏡淵りう子　同 櫻井うめ子
同 江部さだ子

○終身會員

鍵富せつ子　鍵富かう子　古 はつせ子
小出てい子　鈴木さだ子

○特別會員

保倉ちよ子　小柴きく子　安藝かうの子
坂本いち子　前川菊の枝子　布川ます子
長澤こう子　松野なほ子　吉田きん子
森田なほ子　新開かが子　江口みつ子
高橋なみ子　松木みき枝子　鳥居みさを子
高橋ただ子　池原つぐ子　坂口あさ子
笹村えい子　番場ちよの子　長谷川じゆん子
高橋さだ子　高橋末子　長谷川うた子
黒岩松枝子　荒川てい子　齋藤かう子
清水くり子　前田むつ子　櫻井うめ子
中村しげ子　若杉きく子　鍵富とき子
竹山れつ子　八木ゑい子　江部さだ子
關やす子　鈴木とめ子　家坂りやう子
和田くに子　澤田いつ子　清水なみ子
齋藤あい子　三池とみ子　辻澤まし子
平塚しげ子　河合てる子　長谷川まち子
黒田うめ子

○通常會員

岩淵せい子　吉村きよ子　須内ひさ子
若松よし子　高田せん子　松井ふで子
竹内たけ子　宮坂とさ子　中村うめ子
伊藤よし子　篠原きし子　小林うめ子
吉澤とり子　行形いき子　金井そめ子
長井さと子　齋藤たま子　工藤せい子
阿部きく子　清水とよ子　和田ゆき子
内田はる子　大港いし子　金巻とや子
佐藤しん子　齋藤きく子　鍋谷きな子
大西ひさ子　木野井ゆきの子　佐々しげ子

館れい子　大倉とし子　志賀ちゑ子
白勢はな子　村山のぶ子　鏡淵りう子
竹内かう子　石山りん子　中野せき子
中山とう子　會津やす子　青山つね子
齋藤せき子　齋藤まつ子　齋藤まさ子
小澤たけ子　丹羽みす子　渡邊くら子
本山かれ子　木下てつ子　倉田きく子
清水ふみ子

○支會員甲之部

吉田かれ子　栁澤より子　塚野まさ子
石橋きし子　長谷川せん子　涌井とよ子
味方あさ子　味方すゑ子　青木しづ子

○支會員乙之部

中村ちよ子　尾原きく子　高田つる子
眞部のぶ子　外山やゑ子　佐藤すみ子
小林せい子　遠藤みい子

○地方部特別會員

中蒲原郡亀田町　池田よね子
北蒲原郡新發田町　谷みい子
長岡市寶藏院町　山口きよ子
北蒲原郡中浦村大王　市島じゆん子
西蒲原郡五の上村　笹川たし子
北蒲原郡新發田地藏堂町　水島さだ子
清國大連兒玉町　加藤かう子
廣島市大手町八丁目　桑原みさご子

○地方之部通常會員

北蒲原郡新發田町　關井じゆ子
佐渡郡相川町　荒井榮子
南蒲原郡三條町　大岡きし子
中蒲原郡新津町　石崎はつ子
北海道小樽堺町　佐野一枝子

○地方部支會員乙之部

中蒲原郡沼垂町　柴澤みき子

○山形支會會員姓名

○役員

會長　馬淵よし子　幹事　佐柳千代子
幹事　高木孝子　同　國井よしお子
同　鈴木まさよ子　同　佐藤たみ子
同　友田ため子　同　津田道子
評議員　關根たか子　評議員　長谷川ゆう子
同　三浦しげ子　同　村井こと子
同　瀨川まき子　同　江尻しむ子
同　中村松代子　同　長谷川ここ子
同　關原かめい子　同　龜田こはま子
同　遠山そめ子　同　西野きぬ子

○特別會員

國井よしお子　關根たか子　西野きぬ子
佐藤たみ子　津田道子　友田ため子
村井こと子　龜田こはま子　高木こう子
馬淵よし子　佐柳千代子　毛呂まさ子
遠山そめ子　江尻しむ子　新關たん子
吉野ふみ子　新とく子　姉川あき子

萩榮子
坂口よし子
恒川ひで子
川田悦子
宮島孝子
塚田きぬ子
丹生きく子
板垣千代子
河原たに子
五十嵐よしゑ子
戸田たき子
木細はる子
久保田みね子

〇通常會員

後藤まき子
大森まつ子
橋口さた子
山岸きみ子
香山きち子
中村やよ子
榎森ゑい子
佐藤ゑん子
長谷川こと子
關原かめい子
染谷なか子
德田ゆう子
安井ふく子
牧野すき子
山崎ひで子
伊藤ひさ子
杉山りやう子
鈴木まさよ子
中村とき子
山田さき子
黒柳きぬ子
横山ちよ子
満尾まさ子
鈴木まな子
高宮あさ子
工藤せい子
中村まつよ子
鈴木みて子
三浦しけ子
伊藤たま子
片山かい子
三浦まさ子
瀬川ゑき子
野々村さだ子
奈良村きく子
齋藤とり子
常田とめゐ子
木俣もと子
高橋ます子
菅井ひさ子
佐藤ふみ子
國井さた子
高橋やよ子
細谷わか子
林ちせ子
佐々木まさ子
長谷川ゆう子
高島こと子
猪野せい子
荘司いわ子
三井いよ子
宮澤いな子
高橋せい子
佐藤なな子
湖わか子
加藤あき子
佐藤みつ子
野呂梅子

〇宇都宮支會會員姓名

〇役員

會長 中山笑子
副會長 柴田しづ子
評議員 安井よしの子
評議員 笠原小常子
同 中山きく子
同 菊池より子
同 吉口さみ子
同 植松ゑい子
同 神野まつ子
同 望月さく子
幹事 石田つね子
幹事 福井よし子
同 行森保司子
同 須賀榮子

〇特別會員

矢板はま子
水野ひさ子
杉谷ひさ子

〇通常會員

佐藤みち子
鈴木たよ子
中里安子
塚田ちよ子
中村ふさ子
中宮みち子
上野かね子
猪俣とく子
峯村みと子
松島とめ子
知久りに子
増淵なみ子
松本とう子
大島ちか子
山内とく子
渡部吉代子
菅谷はま子
中村やす子
松原まさ子
佐久間みの子
上野たみ子
中津川橋子
金田かん子
鳥居くに子
渡きんじ子
田中てる子
手塚よし子
篠原たけ子
小川のぶ子
藤田靜子
長野順子
望月ふさ子
赤坂みつ子
田野きく子
小林きん子
五十嵐けい子
矢島れん子
本田よれ子
青木しか子
赤羽とく子
伴野さく子
青羽とし子

須田のぶ子
小杉ふさ子
小野しげ子
入江きい子
立岩わか子
山口ひさ子
藤山てい子

神谷しか子
鈴木くめ子
菊池みつ子
原すか子
和田あい子
村上しん子
小山もと子

田野邊ふじ子
加藤まつ子
尾島はく子
黒川つれ子
篠崎やす子
山井くま子

同　酒泉たき子　同　榊いち子
同　檜山やす子
加納はま子

○終身會員

○地方會員

上都賀郡今市町　湯澤きぬ子
足利郡足利町　武居つる子
芳賀郡祖母井村　町田まち子
同　郡中村　久保満美子
同　郡滑原村龍谷　柴野かつ子
那須郡川西町　猪俣なつ子
下都賀郡水代村　田村みほ子
鹽谷郡北高根澤村　宇津のぶ子
上賀郡鹿沼町　山口きよ子
山形縣西置賜郡鮎貝村字内町　阿部てい子
足利郡足利町　足利かね子
同　高橋さだ子
同　近藤てい子
同　岩下幸子
同　荒井よう子

○茨城支會會員姓名

○通常會員

坂遂子
矢田てつ子
榊いち子
長谷川りう子
波多野もと子
湯地りう子
小野花子
山本せつ子
吉野ふゆ子
田村きく子
大關やゑ子
井手のぶ子
鈴木かつ子
高橋ふみ子
菊池くり子
木間瀨ふさ子
堀田たま子

豐田英雄子
酒泉たき子
本間てい子
坂垣くめ子
田口まさ子
關谷とく子
朝倉のふ子
三宅てつ子
藤田よし子
鵜飼たけ子
倉田すゑ子
長尾ちやう子
安藤とら子
馬場とく子
淺沼てい子
小塙千代子

大井すゞ子
檜山やす子
内林ふち子
桑原なな子
小室よし子
小田梅野子
藤本せん子
島田りう子
平川うめ子
柳橋はる子
上原いわ子
西原仁子
西久保みさ子
荒井かつ子
岡崎くり子
本田時子

○役員

會長　坂　遂子
副會長　豐田英雄子
幹事　大井すゞ子
幹事　矢田てつ子

○姓名簿中若し誤謬も有之候へば何卒御一報下され度願上候

衛生帶

壹號　壹組　金壹圓也
貳號　壹組　金六拾五錢
吸收綿拾個入壹包　金貳拾貳錢

電話本局千九十六番
振替口座東京一〇一六八番

醫科大學教授
木下博士撰定

婦人衛生帶

解説書御入用の方は郵券貳錢を添へ御申越下され度候

發賣所　東京神田區淡路町
風雲堂藥品部

従來婦人月經時に用ひらるゝ紙或は綿花の類は其消毒の不完全よりして往々不慮の疾患を招くの憂なしとせず然るに木下博士撰定に係る婦人衛生帶なるものは全く之れ等の不備を補ひたるものにして起臥歩行に少しも不自由なく又衣服等を汚損せず使用頗る便利にして安全なるものなれば衛生を重せらるゝ御婦人方は續々御使用あらんことを希ふ

衛生的改良かもじ發賣

新案特許一〇三六二號

種類 丸髷、島田、銀杏髷、其外



本品の特長

一、根元コロップを裝置せるにより舊式のもの、如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少き故禿頭の憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

小賣特約店

京橋區中橋 大西白牡丹

本郷三丁目 兼康商店

淺草區駒形 百助商店

神田須田町 三ツ井屋

日本橋通二 柳屋

●諸かもじ製造販賣

東京市神田區豊島町十七番地

【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助

日本橋區田所町廿一 山三商店

同 横山町一丁目 安井治太郎

同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎

同 横山町一丁目 天野源七

同 馬喰町三丁目 阿部錠

同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店

同 横山町二丁目 江川小間物店

同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九 北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スヘシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ヘシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セス會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分ヲ新ニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムヘシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルヘク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムヘシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ス●第九條 特ニ支會規則ニ規定セサルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地 行森氏方

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メツキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號
七拾錢(黑塗箱入送費九錢)
六拾錢(桐箱入送費六錢)

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ケ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京麴町區富士見町郵便局)宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
(振替貯金口座東京一〇六〇〇番)

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

明治四十二年二月十六日印刷
同年二月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十一號
(毎月一回二十日發行)